

福島県文化財センター白河館

年報 2 0 1 7

～平成 2 8 年度実績～

公益財団法人福島県文化振興財団

福島県文化財センター白河館

年報2017の発刊によせて

館長 菊池 徹夫

福島県文化財センター白河館（愛称「まほろん」）は、「見て・触れて・考え・学ぶ 体験型フィールドミュージアム」として2001年（平成13年）7月15日に開館いたしました。以来、数多くの方にご来館いただき、2016年（平成28年）7月に、開館15周年を迎えることができました。これもひとえに、県民の皆様のご理解とご支援の賜と感謝申し上げます。

まほろんは、県内の発掘調査で出土した遺物を保管し、昔の住居や人々の生活の様子を復元・展示しています。さらに、全国に先駆けて事業の大きな柱としているのが、体験学習プログラムです。社会科授業の一環として多くの学校にも利用していただき、昔の技術を学び、生きた歴史学習ができる施設として評価をいただいています。

2016年には、開館15周年記念事業として、様々な体験学習活動を行っている全国各地の博物館等の関係者にお集まりいただき「まほろん15周年体験フェスタ」を開催しました。石器づくりや鹿角を使ったアクセサリーづくりなど、来館された方々に様々な体験学習をお楽しみいただくことができました。

企画展としては、まほろん15周年記念指定文化財展「城跡の考古学」を開催しました。県内外の城跡の発掘調査で出土した貴重な遺物を展示し、中世から近世への転換点における福島の歴史を明らかにしようと試みました。

また、「ふくしま平安ものがたり」「震災遺産と文化財」「縄文土器の年代Ⅱ」を開催し、特に「ふくしま平安ものがたり」では、京の都のイメージとは大きく異なる、地方に住んだ人々の生活の様子を、子供達にわかりやすく展示し好評を得ました。

さらに、これら企画展と関連させながら文化財講演会や研修会を開催し、理解が深まるよう努めるとともに、季節ごとに行うイベントでは、古代の人々の生活に触れる事ができるよう、様々な体験コーナーを用意して、大勢の方に喜んでいただきました。

このような活動の結果もあって、年間の入館者数は29,341名と増加傾向が続き、いよいよ東日本大震災以前の水準に近づいて来ております。

2011年（平成23年）3月の東日本大震災発生以来、遙か昔から私たちを育んでくれた福島の豊かな自然、その恵みによって成り立ってきた住民の暮らしは、大きく変化しています。また、生活様式の変化や担い手の高齢化、後継者不足などもあって、地域の人々によって継承されてきた民俗芸能や伝統技術も残念ながら急速に失われつつあります。このように、存続の危機にある生活技術、風俗習慣や文化を次の世代に伝承していくことが、喫緊の課題となっています。まほろんでも、見て・触れて・考え・学ぶ「場」として、今後ともその役割の一端を担っていこうと考えています。

皆様のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。



開館 15 周年体験フェスタ開幕式テープカット



開館 15 周年体験フェスタ開幕しくす玉割り

目 次

第1章 まほろんの概要	
1 まほろんの業務	1
2 まほろんの沿革	1
3 平成28年度の主な行事	2
4 東日本大震災の影響	2
3. 活動内容	27
4. 受け入れ体制	27
9 その他	27
1. 年報2016の発行	27
2. 運営協議会の開催	27
3. 博物館実習	28
4. 被災ミュージアム再興事業	28
5. 他機関との連携	28
6. 歴史再発見事業資料展	29
第2章 管理業務の実施状況及び利用状況	
1 利用状況	3
1. 利用者数	3
2. 入館者数の内訳と傾向	3
2 維持管理に関する業務	5
1. 建築物・設備・環境衛生・ 外構等保守管理業務	5
2. 施設・設備等の修繕状況	5
3. 備品・物品管理業務	5
3 文化財の収蔵・保管に関する業務	6
1. 収蔵資料	6
2. 資料貸し出し	6
3. 写真掲載等承認	6
4. 資料閲覧	7
4 文化財の活用に関する業務	8
1. 常設展示	8
2. 企画展示	10
3. 講演会等	17
4. 体験学習・イベント	19
5 文化財に関する情報発信	23
1. ホームページによる情報発信	23
2. データベースによる情報提供	23
3. まほろん通信の発行	24
6 文化財に関する研修事業	25
1. 研修事業の概要	25
2. 基礎研修	25
3. 専門研修	26
4. 特別研修	26
7 文化財の活用に関する調査研究	26
1. 放射性炭素年代測定と炭素窒素 安定同位体比分析	26
2. 研究紀要	26
8 ボランティアの運営	27
1. 募集	27
2. 登録	27
第3章 平成28年度の組織と管理運営費	
1 組織	30
2 管理運営費	30
第4章 まほろん施設の概要	31
第5章 まほろんの条例・規則	
1 福島県文化財センター白河館条例	33
2 福島県文化財センター白河館条例 施行規則	33
まほろんの利用案内	34

第1章 まほろんの概要

1 まほろんの業務

まほろん（福島県文化財センター白河館）は、文化財等を保管し、又は活用することにより、県民の文化の振興に資するため、福島県が設置した文化施設で、平成13年7月に開館し、平成28年7月には開館して15年が経過した。

まほろんは、福島県教育委員会が発掘調査した遺跡で出土した遺物や記録写真、図面などの資料を収蔵・保管し、それを展示・体験学習等に活用すると共に、文化財を担当する市町村職員等の文化財研修、文化財に関する情報発信等の役割を担っている。

福島県では、開館から平成17年度まで財団法人福島県文化振興事業団に業務を委託していたが、平成18年度から指定管理者制度を導入して、管理の業務を行う法人等を広く公募し、平成18年度から平成20年度まで（第1期）、平成21年度から平成25年度まで（第2期）、財団法人福島県文化振興財団（平成24年10月に名称変更）が管理業務を行った。

平成26年度から平成30年度まで（第3期）は、公益財団法人福島県文化振興財団が指定管理者として管理業務を行っている。

指定管理者が行う業務は、以下のとおりである。

- 考古資料の保管及び展示、考古資料以外の文化財の展示並びに文化財に関する資料の保管及び展示に関すること。
- 文化財に関する講演会、講習会等の開催に関すること。
- 文化財等を活用した体験学習の実施に関すること。
- 文化財に関する情報の収集及び提供に関すること。
- 文化財に関する調査、研究を担当する市町村等の職員の研修に関すること。
- 考古資料の保管及び文化財の活用に関する専門的又は技術的な調査研究に関すること。
- 白河館の維持補修及び管理に関すること。
- 上記の他に、福島県教育委員会が別に定める業務。

まほろんは貴重な文化財を様々な形で活用する施設であり、文化財の復元研究や体験学習活動を全国に先駆けて実施してきた。また、「遺跡から学ぶ自然と人間のかかわり」をメインテーマとして、“見て・触れて・考え・学ぶ”体験型ミュージアムを目指している。

2 まほろんの沿革

平成6年度

福島県文化財保護審議会が、「福島県文化財センター（仮称）整備基本構想報告書」を答申

平成8年度

「福島県文化財センター白河館（仮称）基本計画」策定

平成11年11月

施設愛称を公募し「まほろん」に決定

平成13年3月27日

福島県文化財センター白河館条例及び施行規則制定

平成13年4月1日

福島県より財団法人福島県文化振興事業団に管理運営委託

平成13年7月15日

福島県文化財センター白河館開館記念式典

平成16年2月28日 入館者10万人到達

平成18年4月1日

「福島県文化財センター白河館指定管理者」として福島県より財団法人福島県文化振興事業団に管理運営委託（平成21年3月31日まで）

平成19年4月14日 入館者20万人到達

平成21年4月1日

「福島県文化財センター白河館指定管理者」として福島県より財団法人福島県文化振興事業団に管理運営委託（平成26年3月31日まで）

平成22年4月25日 入館者30万人到達

平成22年9月10日

開館以来館長を務めた藤本強館長が急逝。平成23年3月31日まで館長職を福島県文化振興事業団富田孝志理事長が兼務

平成23年3月11日

東日本大震災発生。館内に被災箇所あり。4月30日まで臨時休館

平成23年4月1日 菊池徹夫新館長就任

平成23年5月1日

震災被害により使用できなくなった一般収蔵庫及び野外展示施設を除き、再開館

平成24年4月15日

野外展示施設修繕完了、使用を再開

平成24年5月3日

一般収蔵庫修繕完了、使用を再開

平成24年5月19日

開館10周年記念行事を実施

平成26年2月8日 入館者40万人到達

平成27年12月5日 入館者45万人到達

平成28年9月25日

開館15周年記念行事を実施

3 平成28年度の主な行事

平成28年3月5日～5月8日

収蔵資料展「縄文土器の年代―その古さを読み解く―」

平成28年5月3日～5日 GWまほろんまつり

平成28年5月28日～7月3日

ふくしま復興展1「震災遺産と文化財」

平成28年7月23日～9月25日

ふくしま復興展2「ふくしま平安ものがたり」

平成28年7月31日 まほろん夏まつり

平成28年8月11日～15日 まほろんを描こう



まほろん冬まつり「ドキ土器キャンドル」

平成28年9月25日

まほろん15周年体験フェスタ

平成28年10月15日～12月18日

指定文化財展「城跡の考古学」

平成28年11月27日 まほろん感謝デー

平成29年1月7日～15日

まほろん写真コンテスト

平成29年2月19日 まほろん冬まつり

平成29年3月4日～3月30日

収蔵資料展「縄文土器の年代Ⅱ―縄文中期の世界に迫る―」（前期展示）

ポクといっしょに平安時代の
ふくし夢をのぞいてみよう。

ふくしま復興展
ふくしま平安ものがたり

平成28年7月23日(土)～9月25日(日)

休館日 8/29(月) 9/5(月) 9/12(月) 9/20(火)

場所: まほろん特別展示室
利用時間 9:30～17:00 (入館は16:30まで)

文化財講演会
白河郡街道遺跡群について
講師: 鈴木 功 氏
(白河郡街道遺跡群調査委員)

日時: 平成28年9月28日(日)
13:30～15:30
場所: まほろん講堂
定員: 先着60名(申込不要)

子どものための展示解説会
7月23日(土) 11:00
7月31日(日) 12:30
8月11日(木) 12:30
8月28日(日) 12:30
9月17日(土) 12:30
9月25日(日) 12:30
※大人の方も参加できます

主催: 公益財団法人 福島県文化振興財団

お問い合わせ: 福島県文化財センター白河館(まほろん)
〒981-0835 福島県白河市白坂一丁目86
TEL: 0248-21-0700 FAX: 0248-21-1075
ホームページ 公式ブログ

ふくしま平安ものがたりポスター

4 東日本大震災の影響

福島県教育委員会は、東日本大震災により被災した歴史博物館の収蔵資料を保管するための文化財仮保管施設を当館の敷地内に設置している。本施設には、福島県被災文化財等救援本部により救出された、富岡町歴史民俗資料館・大熊町民俗伝承館・双葉町歴史民俗資料館の収蔵資料が保管されている。

第2章 管理業務の実施状況及び利用状況

1 利用状況

1. 利用者数

平成28年度の総利用者数は、35,217名（平成27年度32,695名）で、前年度に比べ2,522名の増加となった。入館者数は、29,341名（平成27年度27,227名）、館外利用者数は、5,876名（平成27年度5,468名）であった。

入館者数については、前年度に比べ団体入館者が減少したものの、個人利用者が2,281名増加した。平成27年度に大きく増加した、ゴールデンウィーク期間や季節毎に開催する「まほろんイベント」の延べ入館者数は、4,590名（平成27年度4,877名）となり、2年連続で4,500名を超えた。

館外利用については、小中学校等の教育機関を対象とする「おでかけまほろん」を42箇所、公民館等の生涯学習施設を対象とする「まほろん出前講座」を8箇所、地域のイベント等を対象とする「まるごとまほろん」を7箇所で開催した。これらの利用人数は3,422名（平成27年度3,139名）となり、前年度から283名増加した。

また、兵庫県立考古博物館で開催された「全国古代体験フェスティバル2016」に出席。ブー

ス利用者は880名となった。その他の研修会等を含めた館外利用者の総数は、前年度に比べ、408名増加した。

2. 入館者数の内訳と傾向

入館者数は、29,341名（平成27年度27,227名）となった。

（1）地域別利用状況

入館者の地域別利用者は、県内が24,494名（平成27年度23,382名）で83.5%（平成27年度85.9%）、県外が4,847名（平成27年度3,845名）で16.5%（平成27年度14.1%）であった。前年度に続き、東日本大震災以降で最多の県外利用者数を更新した。

（2）年齢別利用状況

幼児・小中学生・高校生が12,134名で、入館者全体の41.3%（平成27年度40.7%）、一般の入館者数は17,207名で、入館者全体の58.7%（平成27年度59.3%）となり、幼児・小中学生・高校生の入館者の割合が増加した。

月別入館者数

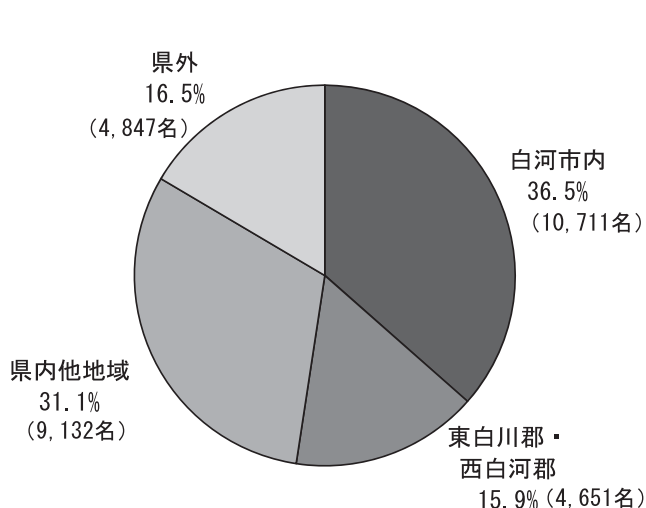
平成28年度	年齢別属性		地域別属性		入館者	館外利用者	総利用者数 (合計)	平成27年度	
	幼小中高	一般	県内	県外				入館者	館外利用者
4月	1,067	1,063	1,917	213	2,130	396	2,526	2,079	341
5月	1,883	2,103	3,361	625	3,986	224	4,210	3,555	352
6月	1,627	1,322	2,696	253	2,949	1,272	4,221	2,651	2,229
7月	1,842	1,698	2,415	1,125	3,540	303	3,843	2,937	193
8月	982	1,720	1,753	949	2,702	105	2,807	2,369	175
9月	1,426	1,551	2,614	363	2,977	178	3,155	3,059	129
10月	880	1,489	2,061	308	2,369	1,609	3,978	2,277	1,527
11月	577	1,388	1,626	339	1,965	1,729	3,694	1,679	431
12月	242	1,039	1,062	219	1,281	14	1,295	2,253	46
1月	342	742	1,014	70	1,084	28	1,112	1,173	26
2月	902	1,489	2,253	138	2,391	0	2,391	1,719	0
3月	364	1,603	1,722	245	1,967	18	1,985	1,476	19
合計	12,134名	17,207名	24,494名	4,847名	29,341名	5,876名	35,217名	27,227名	5,468名

(3) 団体利用状況

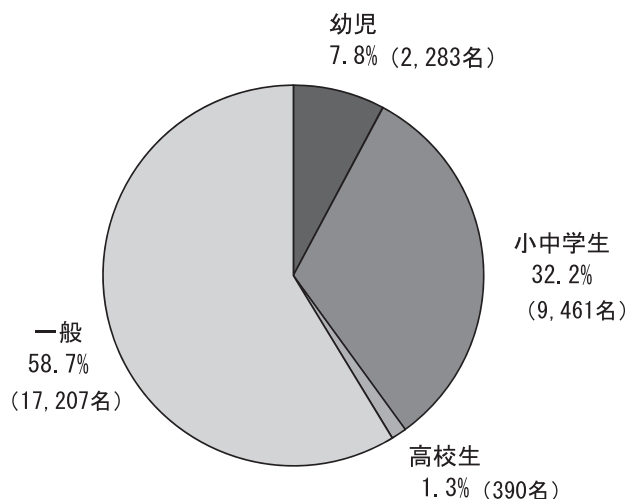
入館した団体数は232団体（平成27年度は234団体）、団体による来館者数は8,821名（平成27年度8,988名）となり、前年度から167名

減少した。

団体利用のうち、学校関係は5,917名（平成27年度6,013名）で、前年度から96名減少した。



地域別構成比



年齢別構成比

団体利用者一覧

団 体			平成28年度													平成27年度	
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	合計	
学校関係	幼稚園・保育園	園数		1	1								1		3	4	
		来館者数		17	32								32		81	113	
	小学校	学校数	12	14	29	8		11	7	1		3	4		89	89	
		来館者数	523	760	1,351	591		800	415	27		130	93		4,690	4653	
	中学校	学校数	2		1	2									5	6	
		来館者数	207		4	158									369	447	
	高等学校	学校数		1				1	1		1				4	2	
		来館者数		30				38	29		21				118	48	
	養護学校	学校数						1							1	1	
		来館者数						39							39	13	
	大学	学校数									1				1	8	
		来館者数									14				14	215	
	生涯学習関係	幼小中高PTA （保護者のみ）	学校数						1						1	0	
			来館者数						14						14	0	
幼小中高PTA （親子レク等）		学校数			3	2		1	2					8	10		
		来館者数			248	142		58	144						592	524	
社会福祉関係	福祉施設・デイ ケアサービス	会数												0	3		
		来館者数												0	139		
	子ども会	会数			1	2	1	1					1		6	3	
		来館者数			15	100	20	24					38		197	204	
公民館等	館数		3	1	2	3	1	4	5	2		2		23	23		
	来館者数		76	8	56	92	20	149	106	52		64		623	622		
文化団体関係	資料館等	団体数	1	4	4	7	2		3		1	1	3	5	31	25	
		来館者数	15	46	39	63	57		30		8	10	35	63	366	440	
	歴史研究	館数					1	1	1	1	1				5	3	
		来館者数					7	25	43	13	14				102	124	
行政機関関係	県・市町村・ 教委・審議会等	団体数							1						1	3	
		来館者数								26					26	29	
その他	その他	団体数				1	2			1		1			5	14	
		来館者数				80	68			6		5			159	386	
合計	団体数	3	3	6	8	6	6	8	5	3				1	49	40	
		来館者数	29	76	117	447	301	89	163	93	75			41	1,431	1,031	
	総来館者数	774	1,005	1,814	1,637	545	1,107	973	285	170	145	262	104	8,821	8,988		
		団体利用者の割合（％）	2,130	3,986	2,949	3,540	2,702	2,977	2,369	1,965	1,281	1,084	2,391	1,967	29,341	27,227	
		36.34%	25.21%	61.51%	46.24%	20.17%	37.19%	41.07%	14.50%	13.27%	13.38%	10.96%	5.29%	30.06%	33.01%		

2 維持管理に関する業務

1. 建築物・設備・環境衛生・外構等保守管理業務

「福島県文化財センター白河館の維持管理に係る業務仕様書」に則し、下記のとおり実施した。

- (1) 空調設備点検業務
(株) 東北セイワ
- (2) 消防用設備等保守点検業務
車田電気工業 (株)
- (3) 簡易型昇降機及びリフター保守点検業務
(株) ハイン
- (4) 自動ドア保全業務
(株) 明成エンジニアリング
- (5) 自家用電気工作物保安管理業務
(一財) 東北電気保安協会
- (6) 展示用及び講堂用AV機器保守点検業務
(株) オリエンタル・エージェンシー
- (7) 植栽管理業務
(有) 永野造園
- (8) 清掃業務
(株) タイセークリーン
- (9) 警備業務
ALSOK福島 (株)
- (10) 電話設備等点検業務
(株) ユニテック
- (11) 除雪業務
(有) 猪越土木

2. 施設・設備等の修繕状況

- (1) 平成28年 5月10日
駐車場区画線等修繕
- (2) 平成29年 1月18日
野外展示「室町時代の館」改修工事（福島県直轄事業）
- (3) 平成29年 2月 7日
野外展示「前方後円墳」照明設備修繕
- (4) 平成29年 2月10日
野外展示「室町時代の館」柵列丸太塗装修繕
- (5) 平成29年 2月27日
事務室給湯室混合水栓交換及び排水管用コーキング補修

- (6) 平成29年 3月 6日
受変電設備修繕工事（福島県直轄事業）
- (7) 平成29年 3月14日
一般収蔵庫照明設備修繕
- (8) 平成29年 3月30日
消防用設備等修繕
- (9) 平成29年 3月30日
非常用自家発電設備修繕



室町時代の館

3. 備品・物品管理業務

基本協定書別表「管理財産一覧」について適正に管理した。

3 文化財の収蔵・保管に関する業務

1. 収蔵資料

	遺 物	写 真	図 面	地図・カード類	無形の文化財関連	合計(箱)
一般収蔵庫	45,536	3,135	1,093	520	10	50,294
特別収蔵庫	670					670
合計	46,206	3,135	1,093	520	10	50,964

※1 一般収蔵庫の収容能力は最大66,000箱

※2 特別収蔵庫には保存処理済みの木質遺物・金属製遺物を収納

2. 資料貸し出し

(1) 遺 物 (12件)

貸出期間	貸 出 先	資 料 名	数量 (点)
平28.4.1～平29.3.31	須賀川市立博物館（常設展示）	須賀川市梅田横穴古墳須恵器	1
平28.4.1～平28.12.2	磐梯町磐梯山慧日寺資料館（テーマ展「縄文文化の十字路・法正厩遺跡」）	磐梯町法正厩遺跡出土縄文土器ほか	31
平28.4.1～平29.3.21	国立科学博物館（常設展示）	飯館村日向南遺跡ほか出土縄文土器	8
平28.4.1～平29.3.31	東北電力株式会社原町火力発電所	南相馬市鳥打沢A遺跡出土土師器ほか	24
平28.4.1～平28.12.7	国立歴史民俗博物館	天栄村桑名邸遺跡縄文土器ほか	3
平28.4.1～平29.3.31	郡山市教育委員会（大安場史跡公園常設展示）	郡山市弥明遺跡出土石器	5
平28.4.1～平29.3.31	福島県立博物館（常設展示）	桑折町平林遺跡出土旧石器ほか	1,242
平28.4.1～平29.3.31	福島県立博物館（「ふるさとの考古資料6【飯館村】遺跡探訪」）	飯館村羽白C遺跡出土縄文土器ほか	580
平28.4.1～平29.3.31	白河市歴史民俗資料館（常設展示「白河の歴史と文化」）	白河市一里段A遺跡出土石器ほか	5
平28.7.14～平28.11.30	公益財団法人福島市振興公社（企画展「和台遺跡 阿武隈河畔の巨大集落を探索」）	本宮市高木遺跡出土縄文土器ほか	44
平29.1.14～平29.1.27	公益財団法人福島県文化振興財団（歴史再発見事業「手仕事ふくしま考古学からみた木工技術」講演会ミニ展示）	福島市弓手原A遺跡出土木製品	5
平29.1.19～平29.3.22	公益財団法人仙台市市民文化事業団（ミニ企画展「縄文人の精神生活祭りとくらし」）	飯館村羽白C遺跡出土縄文土器ほか	15
		合 計	1,963

(2) 模型及びレプリカ (2件)

貸出期間	貸 出 先	資 料 名	数量 (点)
平28.4.1～平29.3.31	福島県立博物館（常設展示）	梵鐘復元品ほか	16
平28.4.1～平29.3.31	磐梯町磐梯山慧日寺資料館（テーマ展「縄文文化の十字路・法正厩遺跡」）	磐梯町法正厩遺跡復元地形模型ほか	11
		合 計	27

3. 写真掲載等承認 (28件)

承認日	申請者（掲載刊行物等）	資 料 名	数量 (点)
平28.4.8	株式会社はる制作室（『平成版おとなの歴史』）	まほろんホームページ内写真	3
平28.4.25	集英社（『学習まんが日本の歴史』3巻）	奈良時代の家写真	1
平28.6.9	斎藤正樹（『モンモ』2016盛夏号）	三春町柴原A遺跡出土土偶写真	1
平28.6.19	株式会社小学館（『有名中学合格辞典2017』、『入試問題過去問演習・テキスト』「洛星中学校入学試験」）	天栄村桑名邸遺跡出土縄文土器写真	1
平28.6.23	誉田亜紀子（『東京新聞』夕刊）	郡山市荒小路遺跡出土土偶	1
平28.6.29	南相馬市博物館（『原町市史』第一巻 通史Ⅰ）	玉川村江平遺跡出土土簡写真ほか	2
平28.7.6	南相馬市博物館（『原町市史』第一巻 通史Ⅰ）	相馬市大森A遺跡遺構写真	2
平28.7.8	公益財団法人福島市振興公社（じょーもびあ宮畑企画展「和台遺跡 阿武隈河畔の巨大集落を探索」展示パネル）	本宮市高木遺跡遺構写真	6

第2章 管理業務の実施状況及び利用状況

承認日	申請者（掲載刊行物等）	資 料 名	数量 (点)
平28.7.21	南相馬市博物館（『原町市史』第一巻 通史Ⅰ）	いわき市大猿田遺跡付札木簡	1
平28.9.3	明治図書出版株式会社（5科の総仕上げ）	磐梯町法正尻遺跡出土縄文土器写真	1
平28.9.9	株式会社進和クリエイティブセンター（『ゆうゆうらんど』）	常設展示奈良時代の食卓写真ほか	3
平28.9.9	鹿又喜隆（『文化』第80巻1・2号）	三春町越田和遺跡出土石器写真	3
平28.9.15	南相馬市博物館（『原町市史』第一巻 通史Ⅰ）	南相馬市長湊遺跡製鉄炉・踏みフイゴ写真	1
平28.10.6	読売新聞東京本社（読売新聞）	相馬市段ノ原B遺跡地割れ痕跡写真	1
平28.10.7	南相馬市博物館（『原町市史』第一巻 通史Ⅰ）	縄文時代の家写真	1
平28.10.13	朝日新聞出版書籍編集部（道路と古代律令国家 ネットワーク網、どう作りどう活かしたのか）	武装軍団兵士写真	1
平28.11.10	秋田城跡歴史資料館（後期企画展パンフレット）	武装軍団兵士写真ほか	5
平28.11.11	南相馬市博物館（『原町市史』第一巻 通史Ⅰ）	南相馬市八重米坂A遺跡遺構写真ほか	2
平28.11.25	株式会社山川出版社（『土偶界へようこそ』）	郡山市荒小路遺跡出土土偶写真	4
平28.12.8	古河市役所生涯学習課（『古河市広報誌』1月1日号）	白河館製鉄炉ジオラマ写真	1
平28.12.27	株式会社吉川弘文館（『モノと技術の古代史』金属編）	復元した鉄製品写真ほか	11
平29.1.7	須賀川市（はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト2016福島写真美術館プロジェクト成果説明パネル）	須賀川市牡丹平遺跡遠景写真	1
平29.1.15	高志の国文学館（企画展「官人大家持 困難な時代に生きた良心」展示パネル及び図録）	白河軍団兵士写真ほか	3
平29.1.20	株式会社山川出版社（『土偶のリアル』）	郡山市荒小路遺跡出土土偶写真ほか	2
平29.1.24	山岡信貴（『縄文にハマる人々』）	天栄村桑名邸遺跡出土縄文土器動画	1
平29.2.7	株式会社悠工房（『平成29年度岡山市学力アクセス』）	会津若松市大塚山古墳三角縁神獣鏡復元品写真	1
平29.3.7	いわき市教育文化事業団（『みんなで学ぼういわきの歴史』）	いわき市中田横穴墓の復元馬具写真	1
平29.3.9	磐梯山ジオパーク協議会（Iエリア詳細パンフレット）	法正尻遺跡全景写真ほか	2
		合計	63

4. 資料閲覧

（1）遺 物（13件）

閲覧日	閲覧者（閲覧目的）	資 料 名	数量 (点)
平28.5.1	県外研究者（調査研究）	猪苗代町登戸遺跡出土縄文土器	10
平28.5.1	県内研究者（調査研究）	小野町西田H遺跡出土縄文土器ほか	6
平28.6.23	公益財団法人福島市振興公社（企画展の事前調査）	本宮市高木遺跡出土縄文土器・土偶ほか	47
平28.6.24～25	県内研究者（調査研究）	本宮市高木遺跡出土縄文土器ほか	133
平28.7.16	県外研究者（調査研究）	郡山市徳定A遺跡出土弥生人面付土器	1
平28.7.26	県外研究者（調査研究）	浪江町中平遺跡ほか出土石器	5
平28.8.7	県内研究者（調査研究）	郡山市正直A遺跡出土石製品ほか	1,390
平28.9.23	県内研究者（調査研究）	須賀川市早稲田古墳群出土土器ほか	19
平28.10.5	海外研究者（調査研究）	南相馬市割田H遺跡出土炉壁ほか	30
平28.10.21	県内研究者（調査研究）	福島市弓手原A遺跡出土木製品ほか	9
平28.11.16	県外研究者（調査研究）	会津若松市屋敷遺跡出土土器	8
平28.11.29～12.1	県外研究者（調査研究）	楢葉町馬場前遺跡出土土器・石器ほか	227
平29.2.12	県外研究者（調査研究）	須賀川市一斗内遺跡出土土器ほか	84
		合計	1,969

4 文化財の活用に関する業務

1. 常設展示

(1) 構成

1) プロムナードギャラリー

- ①「土器年代測定結果コーナー」
- ②「探してみよう福島の文化財」
- ③「まほろん周辺の文化財」(パネル展示)
- ④「ふくしまの宝物」

2) 常設展示室

- ①「めぐみの森」
- ②「暮らしのうつりかわり」
 - 〈昭和40年代〉〈江戸時代〉〈生と死〉
 - 〈鎌倉・室町時代〉〈奈良・平安時代〉
 - 〈古墳時代〉〈弥生時代〉〈縄文時代〉
 - 〈旧石器時代〉
- ③「暮らしをささえた道具たち」
 - サブコーナー 〈まほろんビデオBOX〉

- ④「遺跡を掘る」
- ⑤「みんなの研究ひろば」
- ⑥「クイズ福島歴史発見」
- ⑦「のぞいてみよう福島の遺産」
- ⑧「話題の遺跡」
- ⑨「しらかわ歴史名場面」
- ⑩映像展示

(2) 展示替え

平成28年度の展示替えは、別表一覧のとおりである。年度当初に、作成した展示計画案をもとに、企画展事業や他の事業等との関連を持たせた内容とした。

1) 土器年代測定結果コーナー

平成26・27年度に実施したC14炭素年代測定資料中から、縄文時代早期中葉から前期前葉の資料を中心に5回の展示替えを行った。

展示替え一覧

コ ー ナ ー	タ イ ト ル	開 催 期 間	所有者	備 考
土器年代測定結果コーナー	富岡町本町西A遺跡出土の縄文土器	平28.4.1～6.30	福島県教育委員会	
	福島市獅子内遺跡出土の縄文土器	平28.7.1～9.8	福島県教育委員会	
	郡山市中ノ沢A遺跡出土の縄文土器	平28.9.9～10.30	福島県教育委員会	
	小野町西田H遺跡出土の縄文土器	平28.11.1～12.20	福島県教育委員会	
	浪江町田子平遺跡出土の縄文土器	平28.12.21～平29.3.31	福島県教育委員会	
ふくしまの宝物	矢吹町弘法山古墳群出土の罎	平28.4.1～4.10	福島県教育委員会	平成27年度からの継続
	三春町柴原A遺跡出土の土偶	平28.4.12～5.31	福島県教育委員会	
	会津若松市和泉遺跡出土の弥生土器	平28.6.1～7.12	福島県教育委員会	
	南相馬市鳥打沢A遺跡出土の亀形硯	平28.7.13～10.16	福島県教育委員会	
	楡葉町鍛冶屋遺跡出土の和鏡	平28.10.18～12.27	福島県教育委員会	
	下郷町南倉沢遺跡出土の獣面突起	平29.1.4～3.31	福島県教育委員会	
みんなの研究ひろば	博物館実習の成果	平28.4.1～5.31	福島県教育委員会	平成27年度からの継続、小野町堂田A遺跡
	ミニ文化財復興展「富岡町・双葉町・大熊町」	平28.4.1～平29.3.31	富岡町・大熊町・双葉町	1回の展示替え
	小高の箕づくり	平28.6.1～7.30	個人蔵	無形民俗文化財関連
	縄文人の食卓拝見(C14)	平28.9.1～10.30	福島県教育委員会	平成26・27年度年代測定、炭素・窒素安定同位体比分析結果公表
	ふくしま平安ものがたり～残り香～城跡の考古学～兵どもが夢の跡～	平28.11.1～12.20 平28.12.21～平29.3.31	福島県教育委員会	
しらかわ歴史名場面	白河市赤坂裏A遺跡	平28.4.1～5.27	福島県教育委員会	平成27年度からの継続
	泉崎村関和久官衙遺跡	平28.7.14～10.2	福島県教育委員会	
	白河市小峰城跡	平28.10.4～平29.1.9	白河市教育委員会	企画展「城跡の考古学」関連展示
	白河市南堀切遺跡・町屋遺跡	平29.1.11～3.31	白河市教育委員会	企画展「縄文土器の年代Ⅱ」関連展示
話題の遺跡	南相馬市大富西畑遺跡	平28.4.1～5.31	福島県教育委員会	平成27年度からの継続
	まほろん収蔵のアオトラ石器	平28.6.1～8.31	福島県教育委員会	
	三春町柴原A遺跡	平28.7.12～10.23	福島県教育委員会	
	相馬市善光寺遺跡	平28.9.1～10.26	福島県教育委員会	
	白河市小峰城復興の取り組み	平28.10.27～平29.1.11	白河市教育委員会	
	縄文時代中期のヒスイ	平29.1.12～3.31	福島県教育委員会	企画展「縄文土器の年代Ⅱ」関連展示

2) ふくしまの宝物

白河館に収蔵されている出土品の中から、学芸員が逸品をピックアップして紹介するコーナーで、5回の展示替えを行った。

◆矢吹町弘法山古墳群出土の罌（平成27年度からの継続）

◆三春町柴原A遺跡出土の土偶

縄文時代後期のほぼ完形のハート形土偶を展示した。

◆会津若松市和泉遺跡出土の弥生土器

弥生時代後期の完形の壺形土器を展示した。

◆南相馬市鳥打沢A遺跡出土の亀形硯

須恵器製の亀の形に似せた硯を展示した。

◆檜葉町鍛冶屋遺跡出土の和鏡

室町時代後期の地鎮として埋納されたと考えられる蓬萊鏡を展示した。

◆下郷町南倉沢遺跡出土の獣面突起

縄文時代前期中葉の獣を意匠した土器口縁部突起片を展示した。

3) みんなの研究広場

「みんなの研究広場」は、歴史や文化財等に関する研究を紹介するほか、東日本大震災により被災した市町村の文化財展示コーナーとしての活用を図っている。また、当館が行っている無形民俗文化財の保護と活用の取り組みや放射性炭素年代測定法及び炭素・窒素安定同位体比の成果なども展示している。

◆ミニ文化財復興展

原子力災害に伴い白河館に仮保管されている富岡町・大熊町・双葉町の資料を展示し、1回の展示替えを行った。

◆無形民俗文化財の保護と活用の取り組み

まほろんにおいて、取り組んでいる無形民俗文化財の保護と活用について、南相馬市小高区で製作されていた箕の復元製作についての紹介を行った。

◆炭素・窒素安定同位体比分析の結果公表

平成26・27年度に実施した炭素・窒素安定同位体比分析の結果について展示を行った。土器に付着したコゲから、土器で煮炊きしたと推定できる内容物についての研究成果を展示した。

◆企画展関連

企画展に関連した展示を行った。企画展とは異なった視点でテーマ設定を行うなど、一歩踏

み込んだ内容の展示を行った。

4) しらかわ歴史名場面

「しらかわ歴史名場面」は、地元自治体と連携した展示を行うことで、白河地域の文化財について理解を深める展示を目的としている。

本年度は、4遺跡の考古資料について3回の展示替えを行った。

◆泉崎村関和久官衙遺跡

白河郡衙関連遺跡であり県指定文化財に指定されている関和久上町遺跡出土の瓦を中心に展示を行った。

◆白河市小峰城跡

企画展「城跡の考古学」の関連展示として、小峰城跡出土の歴代藩主の家紋が記された軒丸瓦などを展示した。

◆白河市南堀切遺跡・町屋遺跡

企画展「縄文土器の年代Ⅱー縄文中期の世界に迫るー」の関連展示として行った。両遺跡出土の縄文土器やヒスイ製大珠、コハク製飾玉、黒曜石製石器などを展示した。

5) 話題の遺跡

県内の文化財情報を収集し、話題性のある資料を速報的に展示するコーナーである。また、企画展や他の展示コーナーに関連した遺跡を紹介することで、展示室全体が有機的に連携するように努めている。

本年度は、書籍などに紹介された資料や研究紀要に掲載した資料、企画展に関連した資料など5回の展示替えを行った。

◆まほろん収蔵のアオトラ石器

北海道日高山脈の額平川流域で産出する緑色



まほろん収蔵のアオトラ石器

岩（通称：アオトラ石）を用いた県内出土の磨製石斧を紹介した。特に権威を示す財物と考えられる浪江町中平遺跡や郡山市荒小路遺跡出土の大型磨製石斧などを展示した。

◆三春町柴原A遺跡

縄文時代後期の土偶や器面に顔が意匠された土器を展示した。特にほぼ完形の土偶については、書籍で紹介されるなどし、注目を集めた。

◆相馬市善光寺遺跡

河原石に墨書で経文を記した13～14世紀代に属すると考えられる礫石経を展示した。

◆白河市小峰城跡復興の取り組み

東日本大震災により、石垣が被災した小峰城跡が、どのような調査を経て、現在どのような復旧作業を行っているのかについて、崩落した小峰城石垣の石を展示室に実物展示しながら、現在も続く作業の状況を紹介した。

◆縄文時代中期のヒスイ

収蔵資料展「縄文土器の年代Ⅱ－縄文中期の世界に迫る－」の関連展示として、縄文時代中期の遠隔地産出の石材の流通状況から見える、交流状況について紹介した。磐梯町・猪苗代町法正尻遺跡、天栄村桑名邸遺跡、石川町七郎内C遺跡出土ヒスイ製大珠などを展示した。

また、矢祭町岡野田遺跡出土ヒスイ製飾玉や出土土器もあわせて展示した。

（3）展示資料のメンテナンス等

◆野外展示

常設・野外展示資料の状態について、定期的に点検を実施し、軽微な修繕については、展示担当の学芸員が行った。

また、専門業者に依頼した修繕箇所及び方法は以下のとおりである。

◆前方後円墳

石室の人感式ライトのセンサーが故障したが、修繕部品の生産が終了していたため、新式のセンサーに変更した。

◆室町時代の館

櫓門の経年劣化が進行したため、福島県の施工により櫓門全体の建て替えが行われた。

また、柵列丸太材の防腐処理及び柵結縛の補修を行った。

2. 企画展示

（1）収蔵資料展

「縄文土器の年代－その古さを読み解く－」

会期：平成28年3月5日（土）～5月8日（日）
（開催日数57日間）

観覧者数：4,531名（平成28年度中の観覧者）

1）趣旨

平成26年度から、白河館の収蔵資料についてAMS法を用いた放射性炭素年代測定及び炭素・窒素安定同位体比分析を行っている。今回の展示では、平成26・27年度に実施した、縄文時代早期から前期にかけての資料の分析結果を公表した。

また、白河館の収蔵資料を中心として、県内の縄文時代草創期から前期初頭までの土器についての変遷と暦年代値を併せて紹介することで、見学者の理解を深める展示とした。

さらに、炭素・窒素安定同位体比分析のデータに基づき、当時の食生活の一端を推測することも可能であることから、その分析結果に基づく所見についても紹介した。

2）展示の構成と内容

①縄文土器の年代をさぐるには？

土器の古さを知る概念として、相対年代（型式学的編年・層位学的編年）と絶対年代があることを紹介し、それらの特徴を導入部において解説した。また、今回の展示で中心となる縄文時代草創期から前期初頭までの年代幅について説明した。

②土器の型式と年代測定

福島県内の縄文時代草創期・早期・前期初頭



「縄文土器の年代－その古さを読み解く－」

の土器を展示し、土器の型式とともに変化する形や文様などを紹介した。併せて平成26・27年度にAMS年代測定を行った資料と分析結果を初公開した。

③ススとコゲからなぞをとく

土器の内外面に炭化物が付着した土器を展示して、内面と外面に付着する炭化物の意味を解説した。平成26・27年度に行った炭素・窒素安定同位体比(C/N比)分析の方法を紹介しつつ、その結果を初公開した。また、C/N比から当時の食に関しても想定できることから、土器の利用法や当時の植生、食生活と献立、縄文カレンダーなどを展示した。

④最古の土器をもとめて

福島県内の草創期の土器や石器を展示し、AMS年代測定による縄文土器の古さに関する考古学史、主に青森県大平山元I遺跡や神奈川県夏島貝塚資料などについての展示により、放射性炭素年代測定及び炭素・窒素安定同位体比分析の理解をより深める内容とした。

3) 関連事業

平成28年5月1日(日)には、館の職員による文化財講座「縄文時代早期の土器群について」を開催した。

4) 成果と反省

放射性炭素年代測定と炭素・窒素安定同位体比分析の結果を併せて公開する内容であったため、難しいテーマを一般の方にも理解できるような展示構成を心がけた。しかし、一部の観覧者から、専門用語や分析値の記載方法については、工夫が必要との指摘を受けた。

(2) ふくしま復興展1

「震災遺産と文化財」

会期:平成28年5月28日(土)～7月3日(日)
(開催日数32日間)

観覧者数:3,447名

1) 趣旨

ふくしま震災遺産保全プロジェクト実行委員会(事務局:福島県立博物館)と公益財団法人福島県文化振興財団の共同企画として開催した。

震災の「物的証拠」である震災遺産が、文化財保護と同様の視点から保護されるべきものであることを伝え、文化財保護の意義を再認識し

てもらふことを目的とした展示である。

ふくしま震災遺産保全プロジェクトでは、東日本大震災発生後、被災地各地で収集した震災関連資料を「震災遺産」と位置付けて、各地で展示会やシンポジウム等を開催してきた。

本展示では、同プロジェクトで収集されてきた「震災遺産」に加え、福島県文化財センター白河館で収蔵する資料も一部展示することで、これらを震災の「物的証拠」として保護していく意義について問いかける展示内容とした。

2) 展示の構成と内容

展示は5つのテーマに分けて構成した。

①あの日・あの時から

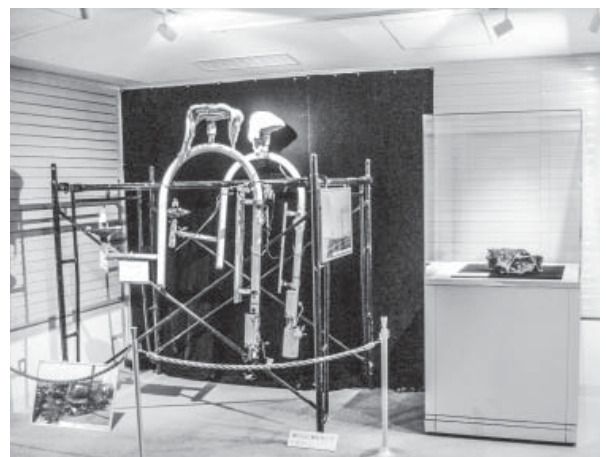
平成23年3月11日の震災発生当日及び直後の被災地の状況を伝える資料として、いわき市久ノ浜地区の火災で溶けた街灯、富岡町の津波で流された郵便ポスト、地震発生直後の時間で止まった看板時計、被災パトカーのドア部分などを展示した。

②避難の多様性

震災と原発事故に伴う避難の実態を伝える資料として、県立富岡高校の避難所に未開封のまま残された非常食、避難所の張り紙、会津若松市に建設された仮設住宅団地の案内看板、復興公営住宅関連資料などを展示した。

③断絶する「日常」

震災に伴う原発事故によって、それまでの地域の日常が突然断絶した状況を伝える資料として、浪江町の新聞販売店に配達されないまま残された震災発生翌日の新聞や広告類、富岡町で4月に開催予定だった「夜の森桜まつり」のポスターなどを展示した。



「震災遺産と文化財」

「震災遺産と文化財」展示資料一覧

番号	資料名	地区	備 考
1	火災で溶けた街灯	いわき市久ノ浜地区	津波発生後の大火災により、電球を覆うフードが溶けた街灯。
2	火災で溶けた街灯看板	いわき市久ノ浜地区	熱により変形した看板。
3	津波で流された郵便ポスト	富岡町	平成11年製。
4	津波で曲がった「諏訪橋」欄干	いわき市平豊間	諏訪橋は豊間地区の市街地から諏訪神社へ向かう途中の諏訪川に架かる橋。
5	「ミチ美容室」看板時計	富岡町・J R 富岡駅前商店街	地震発生直後の時間で止まった時計。
6	「いがり理容室」看板時計	富岡町・仏浜	地震発生直後の時間で止まった時計。
7	地震で落下した天井照明	富岡町・県立富岡高校新体育館	照明が落下したため、体育館を避難所に使えなかった。
8	津波ラインが残る野球場のカーテン	南相馬市鹿島区みちのく鹿島球場	部屋により津波到達の高さが異なる。
9	津波の飛沫が残る天井の石膏ボード	南相馬市鹿島区みちのく鹿島球場	天井の高さは2.4m。
10	津波の時間を示す時計	いわき市豊間中学校体育館	津波により電源が失われ停止した時計。
11	津波被災交通標識	南相馬市小高区	村上城跡・貴船神社・海水浴場・キャンプ場・白鳥飛来地などの地名が記された標識。
12	津波被災パトカー ドア部分	富岡町仏浜地区	
13	パトカー 車内装備など	富岡町 双葉31号車	避難を呼びかけたマイクなど。
14	津波で倒壊した請戸小学校の案内看板	浪江町請戸	津波到達前、請戸小学校の児童はこの看板の脇を通って避難。
15	避難所運営の人員配置を記入したホワイトボード	富岡町 県立富岡高校	
16	非常食等空きダンボール	富岡町 県立富岡高校	
17	非常食（スティックパン）	富岡町 県立富岡高校	未開封のまま残っていたもの。
18	レトルト非常食	浪江町 津島地区？	
19	ロウソク立てに利用した食器類・マッチ	富岡町 県立富岡高校	
20	照明に使った生徒の美術作品（キャンドルカービング）	富岡町 県立富岡高校	
21	体育館を照らしたデスクライト	浪江町 苅野小学校	キャットウォーク（ギャラリー）の手すりにテープでくくり付けられていたもの。
22	体育館暗幕	浪江町 苅野小学校	カーテンレールから取外し、暖をとるために使用か。
23	カレンダーの裏紙に書き込まれた安否情報	浪江町 苅野小学校	
24	避難所掲示物「伝言板」「探し人」	浪江町 浪江中学校・苅野小学校	記載内容は「津島」方面へ移動する旨が多い。
25	避難所掲示物 在所連絡	富岡町 県立富岡高校	
26	避難者役割分担表「トイレの水くみ」ほか	浪江町 浪江中学校	係りを記入する間もなく、全町避難。
27	仮設住宅団地案内看板	会津若松市	広域に分布する仮設住宅団地を示した看板。
28	復興公営住宅入居前交流会資料（みんぶく通信）	会津若松市	除雪の方法についての記事等。
29	パッケージのままの新聞各種	浪江町 権現堂 浪江新聞販売センター	3月12日付け・13日付けの梱包されたままの新聞。
30	広告入りの配達準備の整った新聞包み	浪江町 権現堂 鈴木新聞舗	
31	新聞広告各種	浪江町 権現堂 浪江新聞販売センター・鈴木新聞舗	
32	商店街案内図	富岡町 J R 富岡駅前商店街	
33	夜の森桜まつりポスター	富岡町	2011年用ポスター。
34	横断幕「富岡は負けん！」	富岡町 月の下歩道橋	
35	安定ヨウ素剤	富岡町	
36	フジツボ付着アスファルト	南相馬市小高区	津波で低地に浸入した海水が、原発事故により約1年間排水できず、その間無数のフジツボが発生。
37	J R 浪江駅時刻表（新旧）	浪江町 浪江町中央公民館	平成23年3月12日がダイヤ改正日。
38	公益一時立入車両通行許可証	浪江町ほか	
39	浪江町通行証	浪江町	
40	火を使わない線香	富岡町	制限区域では火の使用ができないため。
41	スクリーニング済証	相馬市	「相馬高校にて」と裏書きあり。
42	食品等スクリーニング検査結果通知書	南相馬市鹿島区	
43	復活した自治体広報誌	浪江町・大熊町・富岡町	発災から2～4ヵ月後様々な形で復刊された広報誌。遠方の避難者向けの冊子もあり。
44	ミズアオイ標本	南相馬市原町区	
45	徳利「角部内」	南相馬市小高区	「角部内」は、津波が直撃した集落名。
46	避難所掲示物「相談室」「散髪室」	相馬市 旧相馬女子高	
47	車内表示「緊急車両 公用車」	相馬市 旧相馬女子高	
48	トップリーダー名簿	相馬市 旧相馬女子高	
49	瓦版	相馬市 旧相馬女子高	「水在庫キビシイ」とのメモ書きあり。
50	無料法律相談のチラシ	相馬市 旧相馬女子高	
51	特設学級作品など	相馬市 旧相馬女子高	
52	特設学級作品「みんなの夢」	相馬市 旧相馬女子高	
53	特設学級関連資料（学級会・時間割など）	相馬市 旧相馬女子高	
54	学校再開についての連絡プリント	相馬市 旧相馬女子高	
55	手づくり名札	相馬市 旧相馬女子高	

④思いがけない「未来」

東日本大震災と原発事故は、それまで考えもしなかった様々な状況を生み出した。時間を追うごとに被災地で新たに生まれた状況を伝える資料として、富岡町の国道の歩道橋に掲げられた「富岡は負けん！」の横断幕、立ち入り禁止区域への車両通行許可証、津波被災地で復活した絶滅危惧種のミズアオイの標本などを展示した。

⑤人の避難所・文化財の避難所

災害時の避難について、人の避難だけでなく、文化財の避難という側面もあったことを紹介するため、東日本大震災時に避難所となった旧相馬女子高校で収集された各種掲示物、特設学級の児童らの作品等のほか、その後の文化財レスキュー事業で、同校舎に一時保管された双葉郡の資料館収蔵資料も展示した。

なお、過去の震災と大津波の痕跡を伝える可能性のある資料として、白河館収蔵の新地町双子遺跡出土の丸木舟も展示した。

3) 関連講演会・研修会

6月5日(日)には、文化財講演会「震災遺産と文化財を考える」、6月18日(土)には、文化財保護・活用基礎研修「被災資料の保全・記録実習」を開催した。

4) 成果と反省

会期中には、5回にわたって展示解説会を行った。見学者からも、概ね好評だった。

また、ふくしま震災遺産保全プロジェクト実行委員会から提供された写真を使ったスライドショー動画を作成し、会期中、常設展示のモニターで上映した。

(3) ふくしま復興展2

「ふくしま平安ものがたり」

会期:平成28年7月23日(土)～9月25日(日)

(開催日数61日間)

観覧者数:7,070名

1) 趣旨

県内において発掘調査例が比較的多い平安時代の資料や復元品を通して、優雅な都のイメージとは異なる平安時代の福島県域の状況を「軍団」「鉄生産」「長者」をテーマとする創作物語を活用して子どもにもわかりやすく解説した企

画展である。

2) 展示の構成と内容

①プロローグ

子どもにも親しめるイメージキャラクター(鳳凰のハウくん)を登場させ、発掘調査の成果などから分かってきた郷土ふくしまの平安時代の概要を解説した。

②軍団兵士のものがたり

平安時代の白河郡から兵役によって国府多賀城へ赴き、貞観地震で被災する軍団兵士の創作物語をテーマに、律令制下における庶民の生活を出土品と復元品により解説した。

③製鉄工人のものがたり

浜通り地方の国家主導による大規模製鉄事業の衰退にさらされた行方郡の庶民をモチーフにした創作物語をテーマに、9世紀を境に変貌する製鉄遺跡について、出土品と復元品により解説した。

④富豪之輩のものがたり

会津郡を舞台に富豪へと成長していく庶民を主人公とする創作物語をテーマに、会津地方の邸宅遺跡や大型農具、遊具、祭祀具等を通して、律令制の崩壊と中世の武士に連なる富豪層の登場を解説した。

⑤エピローグ

平安時代の庶民の心に浸透してきた仏教中心とする信仰をテーマに、県内に残る平安時代の建物や仏像、遺跡等を紹介し現在の文化財へのいざないとした。



「ふくしま平安ものがたり」

3) 関連文化財講演会

8月28日（日）に、白河市建設部都市政策室の鈴木功氏を講師に迎え、文化財講演会「白河郡衙遺跡群について」を開催した。

4) 成果と反省

子どもにも分かりやすい企画展を目標にしてイメージキャラクターによる展示のナビゲート

と創作物語を活用して展示を構成したことで、幅広い世代に平安時代における福島県域の姿を知ってもらうことができた。

展示の主体を庶民の生活の紹介に置いたため、白水阿弥陀堂に代表される、福島県域における貴族的文化の解説には十分及ばなかった。

「ふくしま平安ものがたり」展示資料一覧

番号	資料名	遺跡名	点数	所蔵者
1	灰・緑釉陶器	関和久遺跡	5	福島県教育委員会
2	炭化米	関和久官衙遺跡	1	福島県教育委員会
3	円面硯	関和久遺跡	1	福島県教育委員会
4	墨書土器	関和久遺跡	8	福島県教育委員会
5	円面硯（復元品）	—	1	福島県教育委員会
6	転用硯（復元品）	—	1	福島県教育委員会
7	筆（復元品）	—	1	福島県教育委員会
8	木簡（復元品）	—	1	福島県教育委員会
9	刀子（復元品）	—	1	福島県教育委員会
10	漆紙文書（復元品）	—	1	福島県教育委員会
11	旅装の軍団兵士（復元品）	—	1	福島県教育委員会
12	軍団兵士装備品（復元品）	—	16	福島県教育委員会
13	弩（復元品）	—	1	福島県教育委員会
14	鎧（復元品）	—	1	福島県教育委員会
15	小刀	達中久保遺跡	1	福島県教育委員会
16	蔵手刀	観音山北横穴墓	1	福島県教育委員会
17	鉄鏃	割田C遺跡	1	福島県教育委員会
18	鉄鏃	光谷遺跡	1	福島県教育委員会
19	刀子	北大久保E遺跡	1	福島県教育委員会
20	鉄鉾	大猿田遺跡	1	福島県教育委員会
21	土師器杯	佐平林遺跡	6	福島県教育委員会
22	土師器甕	正直A遺跡	2	福島県教育委員会
23	土師器甕	北大久保B遺跡	1	福島県教育委員会
24	灯明使用土師器杯	江平遺跡	1	福島県教育委員会
25	漆付着土師器杯	江平遺跡	1	福島県教育委員会
26	須恵器壺	達中久保遺跡	1	福島県教育委員会
27	土師器壺	達中久保遺跡	1	福島県教育委員会
28	須恵器長頸瓶	佐平林遺跡	1	福島県教育委員会
29	土師器 耳皿	佐平林遺跡	1	福島県教育委員会
30	須恵器 壺	北大久保B遺跡	1	福島県教育委員会
31	古代の農具（復元品）	—	3	福島県教育委員会
32	鉄製紡錘車（復元品）	—	1	福島県教育委員会
33	鉄製鎌先	上宮崎A遺跡	1	福島県教育委員会
34	鉄製鎌先	関林D遺跡	1	福島県教育委員会
35	鉄製鎌	鶴沼B遺跡	1	福島県教育委員会
36	鉄製紡錘車	割田H遺跡	1	福島県教育委員会
37	曲物	高堂太遺跡	1	福島県教育委員会
38	土錘	谷地前C遺跡	6	福島県教育委員会
39	たも	御山千軒遺跡	1	福島県教育委員会
40	たも（復元品）	—	1	福島県教育委員会
41	現代の鉄製取鍋	—	1	福島県教育委員会
42	鉤状鉄製品	長湊遺跡	1	福島県教育委員会
43	土製取鍋	—	2	福島県教育委員会
44	顔付板状鋳型	—	2	福島県教育委員会

番号	資料名	遺跡名	点数	所蔵者
45	獣脚鋳型	—	5	福島県教育委員会
46	獣面獣脚鋳型	—	2	福島県教育委員会
47	有文板状鋳型	—	2	福島県教育委員会
48	大型容器鋳型	—	1	福島県教育委員会
49	梵鐘鋳型	—	4	福島県教育委員会
50	梵鐘（復元品）	—	1	福島県教育委員会
51	獣脚付き容器（復元）	—	1	福島県教育委員会
52	長方形箱形炉炉壁	割田H遺跡	一括	福島県教育委員会
53	炉底滓	割田H遺跡	一括	福島県教育委員会
54	円形小型炉炉壁	天化沢A遺跡	4	福島県教育委員会
55	鐘形土鈴	大迫遺跡	2	福島県教育委員会
56	小さな鏡形土製品	鳥打沢A遺跡	1	福島県教育委員会
57	鏡形土製品	大迫遺跡	1	福島県教育委員会
58	円板形の土製品	割田H遺跡	2	福島県教育委員会
59	鐘の形をした土鈴	割田C遺跡	1	福島県教育委員会
60	土鈴	割田C遺跡	1	福島県教育委員会
61	井戸枠転用扉板	鶴沼C遺跡	5	福島県教育委員会
62	コロボシ	西木流C遺跡	1	福島県教育委員会
63	火おこし道具	高堂太遺跡	2	福島県教育委員会
64	弓	桜町遺跡	1	福島県教育委員会
65	須恵器長頸瓶	桜町遺跡	1	福島県教育委員会
66	矢	桜町遺跡	1	福島県教育委員会
67	斎串	西木流C遺跡	2	福島県教育委員会
68	舟形木製品	西木流C遺跡	1	福島県教育委員会
69	鋤形木製品	鶴沼B遺跡	1	福島県教育委員会
70	墨書土器（渦巻き）	鶴沼B遺跡	2	福島県教育委員会
71	墨書土器（人面）	鶴沼B遺跡	1	福島県教育委員会
72	墨書土器（「財」）	鶴沼B遺跡	1	福島県教育委員会
73	墨書土器（「吉集」）	鶴沼C遺跡	2	福島県教育委員会
74	三脚鍋	鶴沼C遺跡	3	福島県教育委員会
75	有文円面硯	西坂才遺跡	1	福島県教育委員会
76	帯金具	鳴神・柿内戸遺跡	1	福島県教育委員会
77	帯金具	正直A遺跡	1	福島県教育委員会
78	墨書土器（「大私」）	屋敷遺跡	1	福島県教育委員会
79	墨書土器（「倉人」）	鶴沼C遺跡	1	福島県教育委員会
80	墨書土器（「戸主」）	鶴沼C遺跡	1	福島県教育委員会
81	墨書土器（「田主」）	鶴沼C遺跡	1	福島県教育委員会
82	刻書土器（「今来」）	西木流C遺跡	1	福島県教育委員会
83	仏教関連土器	天化沢A遺跡	8	福島県教育委員会
84	銅鏡	古宿遺跡	2	福島県教育委員会
85	銅鏡	栗木内遺跡	1	福島県教育委員会
86	銅鏡（復元品）	—	1	福島県教育委員会
87	青銅製仏像	四合内B遺跡	1	福島県教育委員会

(4) 開館15周年記念指定文化財展

「城跡の考古学」

会期：平成28年10月15日(土)～12月18日(日)
(開催日数55日間)

観覧者数：4,391名

1) 趣旨

近年の発掘調査により、様相が明らかになってきた県内の城館跡を、近世初頭に焦点をあて、その変遷と意義を紹介した。

豊臣秀吉の「奥羽仕置」によって近世城郭へ大きく変わった県内の城を、高石垣・礎石建物跡・瓦・陶磁器などをキーワードに解説した。

2) 展示の構成と内容

①「中世の城から近世の城へ」

中世と近世の城館の特徴を、出土遺物やパネルを通して対比した。

②「領主の城と家臣の城」

会津領の本城である若松城跡と、支城群(蒲生郷成に関する城跡群、南会津町久川城跡)とを比較して、本城と支城の差異(特に「境目の城」としての支城の意味)について解説した。

③「城内のくらし」

武器をはじめ、茶器や遊具、贈答品などから、平時における城内のさまざまなくらしの様子を紹介した。

④「落城の痕跡」

発掘調査で確認された遺構・遺物から、落城が推定される例を紹介した。

⑤「城跡の調査方法」

発掘調査に先立つ城跡の調査方法として縄張り調査と地形測量調査を紹介し、地籍図調査とともに、有効性と留意点を紹介した。



「城跡の考古学」

「城跡の考古学」展示資料一覧

番号	資料名	遺跡名(資料名)	点数	所蔵者
1	陶磁器	猪久保城跡	3	福島県教育委員会
2	陶磁器	小塙城跡	26	福島県教育委員会
3	石製品	小塙城跡	1	福島県教育委員会
4	瓦質土器	小塙城跡	1	福島県教育委員会
5	木製品	長沼北古館跡	2	須賀川市歴史民俗資料館
6	陶磁器	長沼南古館跡	8	須賀川市歴史民俗資料館
7	漆器	長沼南古館跡	2	須賀川市歴史民俗資料館
8	木製品	長沼南古館跡	1	須賀川市歴史民俗資料館
9	陶磁器	梁川城跡	19	伊達市教育委員会
10	瓦質土器	梁川城跡	2	伊達市教育委員会
11	石製品	梁川城跡	1	伊達市教育委員会
12	かわらけ	梁川城跡	4	伊達市教育委員会
13	土製品	梁川城跡	1	伊達市教育委員会
14	梁川城本丸庭園跡復元模型	梁川城跡	1	福島県立博物館
15	陶磁器	鎌田館跡	1	福島市教育委員会
16	陶磁器	上岡館跡	3	福島市教育委員会
17	陶磁器	二本松城跡	6	二本松市教育委員会
18	木製品	二本松城跡	1	二本松市教育委員会
19	かわらけ	二本松城跡	3	二本松市教育委員会
20	陶磁器	城東町遺跡	7	会津若松市教育委員会
21	木製品	城東町遺跡	2	会津若松市教育委員会
22	瓦	若松城郭内武家屋敷跡	1	会津若松市教育委員会
23	瓦	若松城跡	25	会津若松市教育委員会
24	衣類	蒲生源左衛門家伝来資料	1	福島県立博物館
25	掛け軸	蒲生源左衛門家伝来資料	1	福島県立博物館
26	書籍	蒲生源左衛門家伝来資料	2	福島県立博物館
27	陶磁器	神指城跡	1	福島県教育委員会
28	漆器	神指城跡	3	福島県教育委員会
29	瓦	上田城跡	2	上田市立信濃国分寺資料館
30	瓦	沼田城跡	3	沼田市教育委員会
31	陶磁器	沼田城跡	2	沼田市教育委員会
32	陶磁器	久川城跡	2	南会津町教育委員会
33	木製品	亀ヶ崎城跡	13	山形県教育委員会
34	陶磁器	亀ヶ崎城跡	1	山形県教育委員会
35	火縄	亀ヶ崎城跡	1	山形県教育委員会
36	金属製品	高堂太遺跡(下高館跡)	1	福島県教育委員会
37	陶磁器	高堂太遺跡(下高館跡)	11	福島県教育委員会
38	石製品	高堂太遺跡(下高館跡)	2	福島県教育委員会
39	鉄製品	新田館跡	2	須賀川市立博物館
40	鉄製品	猿池館跡	1	須賀川市立博物館
41	鉄製品	猿池館跡	1	須賀川市歴史民俗資料館
42	石製品	鴨ヶ館跡	4	福島県教育委員会
43	木製品	鎌田館跡	1	福島市教育委員会
44	陶磁器	三春城下 追手門前通遺跡群	12	三春町教育委員会
45	陶磁器	小塙城跡	6	福島県教育委員会
46	石製品	小塙城跡	4	福島県教育委員会
47	壁材	小塙城跡	1	福島県教育委員会
48	炭化材	二本松城跡	一式	二本松市教育委員会
49	金属製品	城東町遺跡	1	会津若松市教育委員会
50	金属製品	若松城跡	1	会津若松市教育委員会
51	縄張り図	木村館跡	1	福島県教育委員会
52	地形測量図	小塙城跡	1	福島県教育委員会
53	瓦	小峰城跡	7	白河市教育委員会
54	木製品	小峰城跡	1	白河市教育委員会

⑥「藩庁としての城へ」

近世の城が、戦いのための城から政庁としての城へ性格を変え、現在に至ることを解説し、展示のまとめとした。

3) 成果と反省

各種の資料から、県内を中心とした中世末から近世初頭の城館跡群の変遷を解説する展示を心がけた。また、NHK大河ドラマの主人公である真田氏と県内の城の関連を指摘することで、観覧者の興味を喚起するよう努めた。

期間内は、展示見学を目的とした団体利用申し込みもあったことから、一定の成果はあったものと考えている。

4) その他

展示の関連事業を以下のとおり実施した。

①常設展示室「話題の遺跡」コーナー『白河市小峰城跡復興の取り組み』

会期：平成28年10月2日～12月27日

②常設展示室「しらかわ歴史名場面」コーナー『小峰城跡の調査成果』

会期：平成28年10月4日～12月27日

③常設展示室「映像展示」『美しき城小峰城』（白河市制作）

会期：平成28年11月25日～平成29年1月31日

④シンポジウム「城跡を掘るⅠ－城跡研究のいま－」

期日：平成28年10月29日・30日

⑤シンポジウム「城跡を掘るⅡ－近世城郭の展開－」

期日：平成28年12月3日・4日

(5) 収蔵資料展

「縄文土器の年代Ⅱ－縄文中期の世界に迫る－」
会期：平成29年3月4日（土）～3月30日（木）
（開催日数24日間）

観覧者数：1,846名

1) 趣旨

平成26年度から、白河館の収蔵資料についてAMS法を用いた放射性炭素年代測定及び炭素・窒素安定同位体比分析を行っている。今回の展示では、平成28年度に実施した、主に縄文時代中期に属する資料の分析結果を公表した。

特に、白河館収蔵の国指定重要文化財である磐梯町・猪苗代町法正尻遺跡出土土器を中心として、天栄村桑名邸遺跡、桧葉町馬場前遺跡などの土器と暦年代値を併せて紹介することで、観覧者が理解をより深められる展示とした。また、土器の文様や形から見える地域性や各地との交流の様相を紹介した。

さらに、炭素・窒素安定同位体比分析のデータを基にして読み取れる当時の環境と食生活の一端を推測した。また、県外の炭素・窒素安定同位体比分析データと比較することで、福島県域に生きた縄文人の姿を想像できるように展示を行った。

「縄文土器の年代Ⅱ－縄文中期の世界に迫る－」展示資料一覧

番号	資料名	遺跡名（所在地）	点数	備 考
1	縄文土器深鉢	法正尻遺跡（磐梯町・猪苗代町）	11	
2	縄文土器深鉢	中江聖の宮遺跡（会津美里町）	3	
3	縄文土器深鉢	高木遺跡（本宮市）	4	
4	縄文土器深鉢	馬場前遺跡（桧葉町）	1	
5	縄文土器深鉢	法正尻遺跡（磐梯町・猪苗代町）	43	国指定重要文化財
6	縄文土器深鉢	法正尻遺跡（磐梯町・猪苗代町）	4	
7	縄文土器浅鉢	法正尻遺跡（磐梯町・猪苗代町）	1	国指定重要文化財
8	縄文土器深鉢	馬場前遺跡（桧葉町）	12	
9	縄文土器深鉢	桑名邸遺跡（天栄村）	9	
10	縄文土器深鉢	高木遺跡（本宮市）	3	
11	縄文土器深鉢	高山遺跡（白河市）	1	
12	縄文土器深鉢	鹿島遺跡（会津美里町）	1	
13	縄文土器台付鉢	鹿島遺跡（会津美里町）	1	
14	縄文土器深鉢	南倉沢遺跡（下郷町）	1	
15	縄文土器深鉢	冨宮西遺跡（会津美里町）	1	
16	縄文土器深鉢	中江聖の宮遺跡（会津美里町）	1	
17	縄文土器深鉢	仲平遺跡（三春町）	1	
18	縄文土器深鉢	越田和遺跡（三春町）	1	
19	縄文土器深鉢	前山遺跡（富岡町）	1	
20	縄文土器深鉢	双子遺跡（新地町）	1	
21	縄文土器深鉢	上ノ台A遺跡（飯館村）	1	
22	縄文土器深鉢	北向遺跡（郡山市）	1	
23	縄文土器深鉢	上ノ台A遺跡（飯館村）	2	
24	石器	獅子内遺跡（福島市）	3	

※所蔵者はすべて福島県教育委員会



「縄文土器の年代Ⅱ－縄文中期の世界に迫る－」

2) 展示の構成と内容

①進化するものさし

発掘調査や土器から得られる情報について、具体的な事例を紹介しつつ型式学的編年、層位学的編年や暦年代値があることを説明した。

②土器の年代と地域性

平成28年度にAMS年代測定を行った資料と分析結果を初公開した。併せて、縄文時代中期の特性について、出土した縄文土器の文様や形から得られる、土器の地域色や広域にわたる交流圏などについて紹介した。

③縄文人の食生活と環境

土器の内面に炭化物が付着した土器を展示しつつ、平成28年度に行った炭素・窒素安定同位体比(C/N比)分析の結果を初公開した。また、地域や環境により適応してきた食料事情について、県外のデータを紹介することで、福島県域の縄文時代の食性の特徴を解説した。

3) 成果と反省

前年度の反省として挙げた専門用語や分析値の理解のしにくさについては、展示パネル等に説明文を多く掲載することで観覧者の理解がしやすいように工夫した。また、できるだけ多くの資料を紹介することで、縄文時代中期の理解の手助けになるように、前期展と後期展に分けて、展示資料を大きく入れ替えて展示を行った。平成28年度中の展示は、前期展として開催している。また、展示図録を発行した。

3. 講演会等

(1) 館長講演会

平成28年度は、「北日本の考古学」をテーマに、5回の館長講演会を開催した。

- ・平成28年5月21日(土)第1回「君の故郷に弥生はあるか？」
- ・平成28年7月16日(土)第2回「北日本に人はどう住み始めたか？」
- ・平成28年9月17日(土)第3回「北日本の縄文時代後半期から続縄文期」
- ・平成28年11月12日(土)第4回「北日本の文化はどう形づくられたか？」
- ・平成29年2月4日(土)第5回「謎とオホーツク人とアイヌ文化」

(2) 文化財講演会等

企画展などに関連付けて、文化財講演会を2回、開館15周年記念講演会・シンポジウムを2回、文化財ビデオ上映会を1回、文化財講座を1回開催した。

①「震災遺産と文化財を考える」は、ふくしま復興展1「震災遺産と文化財」の関連講演会で、福島県立博物館の高橋満氏と筑波大学教授の白井哲哉氏が講演を行った。

高橋氏は、東日本大震災が生み出した「様々なモノや記憶(=震災遺産)」を歴史資料として残すための活動について、「ふくしま震災遺産保全プロジェクト」の取り組みを通して解説した。

白井氏は、東日本大震災に関連する資料を「被災資料」と「災害資料」に区分し、それぞれの保存方法について解説した。被災資料では、津波で水損した資料の修復作業等について説明した。また、災害資料では、避難所の様子を詳細な写真記録として残す意義等について説明した。

・実施日：平成28年6月5日(日)

・参加者：16名

②「白河郡衙遺跡群について」は、ふくしま復興展2「ふくしま平安ものがたり」の関連講演会である。白河郡衙遺跡群が国の史跡に指定されるまでの経緯と、遺跡群の今後の利活用や調査研究などの展望について、白河市建設部都市政策室の鈴木功氏が解説した。

・実施日：平成28年8月28日(日)

・参加者：44名



文化財講演会「震災遺産と文化財を考える」

③開館15周年記念講演会・シンポジウム「城跡を掘るⅠー城跡研究のいまー」は、指定文化財展「城跡の考古学」の関連行事である。講演会では、考古学・文献史学各分野の9名の講師が、城跡研究に関する最新の成果等について解説した。

シンポジウムでは、本城と支城の格差や織豊系城郭の特徴の有無等について議論が集中した。また、シンポジウムの後半では、各講演から導き出された城跡研究の要点が改めて整理され、研究者・一般の参加者ともわかりやすい内容となった。



開館15周年記念講演会・シンポジウム
「城跡を掘るⅠー城跡研究のいまー」

- ・実施日：平成28年10月29日（土）・30日（日）
- ・参加者：155名

④開館15周年記念講演会・シンポジウム「城跡を掘るⅡー近世城郭の展開ー」は、10月に実施した「城跡を掘るⅠ」に続く第二弾である。講演会は、考古学を専門とする5名の講師が、福島県を代表する近世城郭について最新の調査成果等を解説した。

シンポジウムでは、考古学の立場から見た「城跡」の概念や、近世城郭の成立と城下町の展開等について議論が集中し、考古学における近世城郭研究の今後の課題と展望を確認することができた。

- ・実施日：平成28年12月3日（土）・4日（日）
- ・参加者：151名

（3）文化財講座

「古代ふくしまの歴史的画期」をテーマとして、大化の改新（645年）前後から、多賀城成立（724年）までに起きた福島県の人々の暮らしの変化について、福島県文化センター歴史資料課長の安田稔氏が解説した。

- ・実施日：平成29年1月15日（日）
- ・参加者：20名

文化財講演会等実施状況

名 称	講 師	実施日	受講者数
第1回「北日本の考古学ー君の故郷に弥生はあるか？ー」	館長 菊池 徹夫	平28.5.21	51名
第2回「北日本の考古学ー北日本に人はどう住み始めたか？ー」	館長 菊池 徹夫	平28.7.16	37名
第3回「北日本の考古学ー北日本の縄文時代後半期から続縄文期ー」	館長 菊池 徹夫	平28.9.17	49名
第4回「北日本の考古学ー北日本の文化はどう形づくられたか？ー」	館長 菊池 徹夫	平28.11.12	26名
第5回「北日本の考古学ー謎のオホーツク人とアイヌ文化ー」	館長 菊池 徹夫	平29.2.4	48名
I 文化財講演会「震災遺産と文化財を考える」	高橋 満（福島県立博物館 専門学芸員）	平28.6.5	16名
	白井 哲哉（筑波大学 教授）		
II 文化財講演会「白河郡衙遺跡群について」	鈴木 功（白河市建設部都市政策室 室長）	平28.8.28	44名
III 開館15周年記念講演会・シンポジウム 「城跡を掘るⅠー城跡研究のいまー」	竹井 英文（東北学院大学 准教授）	平28.10.29 ～30	延べ155名
	高橋 充（福島県立博物館 専門学芸員）		
	垣内 和孝（郡山市文化・学び振興公社 主任）		
	布尾 和史（北塩原村教育委員会 主査）		
	梶原 圭介（会津美里町教育委員会 主任主査）		
	松本 茂（福島県文化振興財団）		
	近藤 真佐夫（会津若松市教育委員会 主幹）		
	今野 賀章（伊達市教育委員会 副主幹）		
IV 開館15周年記念講演会・シンポジウム 「城跡を掘るⅡー近世城郭の展開ー」	佐藤 啓（当館専門学芸員）	平28.12.3 ～4	延べ151名
	飯村 均（福島県文化振興財団）		
	平田 禎文（三春町歴史民俗資料館 副館長）		
	佐藤 真由美（二本松市教育委員会 主任主査）		
	藤田 直一（棚倉町教育委員会 係長）		
	鈴木 一寿（白河市建設部都市政策室 主任主査）		
文化財講座「古代ふくしまの歴史的画期」	安田 稔（福島県文化振興財団）	平29.1.15	20名
文化財ビデオ上映会「福島伝統技術」		平28.12.17	15名
合計			612名

(4) 文化財ビデオ上映会

平成28年度は、無形の文化財研修「職人のワザを後世に伝えるために」に関連して、上映会「福島の伝統技術」を開催した。

上映作品は、森林文化記録映像『森のくらし』から、①「野鍛冶」②「ふくしまの竹と笹」③「編み組細工」である。

- ・実施日：平成28年12月17日（土）
- ・参加者：15名

4. 体験学習・イベント

(1) 常時体験型メニュー

1) 体験活動室メニュー

個人来館者を対象とし、体験活動室で行う体験学習メニューである。平成28年度は、34種類の体験活動室メニューを実施した。この内、「勾玉づくり」「管玉づくり」「火おこしに挑戦」の3種類のメニューは、通年で体験が可能なまほろんの定番メニューである。

定番メニュー以外では、季節の行事や企画展等に関連させたテーマを月毎に定め、そのテーマに則した期間限定のメニューを30種類実施した。「土鈴・土笛づくり」「団扇づくり」「墨流し栞づくり」「ペーパー法螺貝づくり」「ミニクリスマスリースづくり」「施文原体ペンダントづくり」は本年度からの新メニューであり、その他のメニューについても、内容を一新して実施した。

体験活動室メニューの実施状況

メニュー	内容	参加人数
通年	勾玉づくり	1,370名
	管玉づくり	60名
	火おこしに挑戦しよう	2,035名
土偶まつり	土偶ペンダントづくり	265名
	土偶キーホルダーづくり	191名
	土偶お面づくり	231名
土器の文様の鯉のぼり	拓本でミニ鯉のぼりづくり	100名
	拓本でミニ鯉のぼり型栞づくり	154名
	缶バッジづくり	62名
	土製品アクセサリーづくり	63名
組紐と網代で小物づくり	組紐ストラップ	56名
	網代コースター	83名
土の音を聞いてみよう	土鈴・土笛づくり	102名
	缶バッジづくり	159名
	七夕飾りづくり	93名
夏休み特別メニュー	団扇づくり	514名
	スタンプラリー	474名
偶然の形・あえての形	缶バッジづくり	402名
	墨流し栞づくり	118名
	マーブリングポストカードづくり	67名
	装飾壁画を描く	38名
粘土三昧	土器・ハニワ・土偶・土面づくり	214名
戦国模様	ペーパー法螺貝づくり	88名
	紙かぶとづくり	165名
	時代衣装を着る	88名
師走のデコアイテムクラフト	アンギン編みのコースターづくり	7名
	ミニクリスマスリースづくり	58名
	ミニ門松づくり	131名
昔の遊び	羽子板づくり	185名
	凧づくり	155名
	切り絵体験	219名
ガラス玉づくりに挑戦	ガラス玉づくり	158名
	お面づくり	77名
	お雛様づくり	46名
春の香りとペンダントづくり	匂袋づくり	139名
	施文原体ペンダントづくり	233名
合計		8,600名



「土器の模様の鯉のぼり」



「団扇づくり」

2) 臨時の個人来館者対応の体験メニュー

まほろんイベントや小中学校の夏休み期間において、表に示した個人来館者向けの臨時体験メニューを実施した。

臨時の個人来館者対応の体験メニュー

内容	参加人数	内容	参加人数
ミニチュア縄文鯉のぼりづくり	160名	烏帽子づくり	57名
缶バッジづくり	138名	むかしの水鉄砲あそび	103名
紙かぶとづくり	718名	鉄砲狭間からシューティング	335名
スタンプラリー・オリエンテーリング	965名	ふくしま城取りシールラリー	230名
原始模様ペンダントづくり	409名	蒔絵風缶バッジづくり	194名
火おこし選手権	1,047名	戦国喫茶	101名
弓矢体験	2,259名	親子できなこ挽き	139名
射的体験	841名	鉄砲玉風きなこ飴づくり	184名
勾玉づくり	374名	捶丸対決	134名
平安のかほり（勾袋づくり）	23名	ショコラでDOGU	199名
平安カフェ	184名	プチ宝さがし	154名
ファイゴdeバブリー	167名	まほろん福箕づくり	179名
本物の土器にふれてみよう	120名	オリジナルコースターづくり	200名
		合計	9,614名



「ファイゴdeバブリー」（まほろん夏まつり）

3) 団体来館者対応の体験メニュー

事前予約の団体来館者に対し、実施するメニューで、表に示した14のメニューを実施した。また、条件付きで、体験活動室メニューを団体来館者対応の体験メニューとして実施した。

団体来館者対応の体験メニュー

内容	参加人数	内容	参加人数
勾玉づくり	2,989名	じょーもんファッション（時代衣装）	14名
管玉づくり	138名	ドキ土器スタンプに挑戦	27名
火おこしに挑戦	3,921名	缶バッジづくり	43名
アングン編みに挑戦	35名	組紐ミサンガづくり	85名
本物の土器や石器にふれてみよう	3,002名	昔のあそび・昭和のあそび	40名
本格的な土器づくり	105名	昔の道具にふれてみよう	716名
ミニチュア土器・埴輪づくり	471名	体験活動室メニュー他	73名
土偶ペンダントづくり	39名	合計	11,698名

(2) 募集型体験学習メニュー

1) 実技講座実施状況

出土品や日本の伝統文化に関連した“モノづくり”を体験することで、文化財への理解や愛着を深めることを目的とした講座である。

平成28年度は9講座（全19回）を実施した。「竹かごをつくろう」は本年度からの新講座である。また、「鹿角の釣針で魚を釣ってみよう」の2回目は、ふくしま海洋科学館（アクアマリンふくしま）の協力で同地で実施した。

実技講座実施状況

講座名	実施日	参加人数
家族で土器づくり初級編①製作	平28.5.15	15名
家族で土器づくり初級編②野焼き	平28.6.12	7名
カラムシから布をつくろう①刈り取り	平28.7.3	14名
カラムシから布をつくろう②糸づくり	平28.7.17	13名
鹿角の釣針で魚を釣ってみよう①釣針づくり	平28.7.24	7名
鹿角の釣針で魚を釣ってみよう②魚釣り	平28.8.7	7名
染色にちょうせん	平28.8.21	21名
カラムシから布をつくろう③布づくり	平28.8.28	14名
茶わんづくり①製作	平28.10.16	17名
茶わんづくり②絵付け	平28.11.20	17名
竹かごをつくろう①ヒゴづくり	平28.12.11	13名
竹かごをつくろう②かご編み	平28.12.17	14名
竹かごをつくろう③かご編み	平28.12.18	14名
家族で門松をつくろう（前期）	平28.12.24	17名
家族で門松をつくろう（後期）	平28.12.25	21名
縄文土器づくり上級編①形づくり	平29.1.28	12名
縄文土器づくり上級編②文様づけ	平29.1.29	10名
アクセサリーをつくろう	平29.2.12	11名
縄文土器づくり上級編③野焼き	平29.2.26	10名
	合計	254名



「家族で門松をつくろう」

2) まほろんイベント

館の業務とその魅力を広く県民に伝え、利用者の幅を広げることを目的として、平成28年度は9回実施した。

「15周年体験フェスタ」は、まほろんの開館15周年を記念したイベントで、県内外の体験学習を実施している施設・団体（三内丸山遺跡縄文時遊館、御所野縄文博物館、奥松島縄文村歴史資料館、仙台市縄文の森広場、吉野ヶ里歴史公園、栃木県埋蔵文化財センター、大安場史跡公園、いわき市考古資料館、木積箕づくり保存会）に参加していただき、2日間にわたり実施した。初日は、事例報告会、2日目は体験イベントであった。

「歴史と植物を学ぶ野外展示解説会」および「まほろん写真コンテスト」は平成28年度に初めて実施したイベントである。

まほろんイベント

イベント日	実施日	参加者数
1 GWまほろんまつり	平28.5.3～5	1,808名
2 歴史と植物を学ぶ野外展示解説会	平28.6.26	26名
3 まほろん夏まつり	平28.7.31	329名
4 まほろんを描こう	平28.8.11～15	37名
5 まほろん15周年体験フェスタ	平28.9.25	732名
6 歴史と植物を学ぶ野外展示解説会	平28.10.23	11名
7 まほろん感謝デー	平28.11.27	574名
8 まほろん写真コンテスト	平29.1.7～15	16名
9 まほろん冬まつり	平29.2.19	1,057名
合計		4,590名

3) まほろん森の塾

まほろん森の塾は、昔のくらしや技術を体験することで、参加者が生きる力を身につけることを目的にして実施してる全6回の体験学習で、小学校4年生から中学生までを参加対象としている。

平成28年度は、小学生14名が登録した。本年度は、鹿角の釣針の製作と釣り体験、紙づくり、縄文時代の料理づくり、ほうきづくりなどの活動を実施した。特に釣針製作と釣りについては、実技講座「鹿角の釣針で魚を釣ってみよう」に参加する形で実施した。

まほろん森の塾実施状況

講座名	内容	実施日	参加人数
第1回	入塾式、昔の技を学ぼう	平28.6.26	14名
第2回	釣針をつくる	平28.7.24	11名
第3回	釣針で魚を釣る	平28.8.7	8名
第4回	紙をつくる	平28.9.11	11名
第5回	縄文時代の料理をつくる	平28.10.9	13名
第6回	ほうきづくり、終了式	平28.11.13	11名
延べ			68名



まほろん森の塾

(3) 館外体験学習事業

本事業は、県内の学校や公民館などの生涯学習施設における体験学習を支援することを目的とした事業である。具体的には、白河館へ来館するのが困難な学校や諸施設へ、館の職員が収蔵資料や体験学習資材を携えて出向き（「ネットでまほろん」を除く）、地域の歴史を伝え、体験活動の一部を行うものである。

おでかけまほろん

番号	学校名	学年・科目	内容	実施日	参加人数
1	大玉村立玉井小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし	平28.4.13	50名
2	双葉町立双葉北小学校・双葉南小学校	小6年、社会	土器さわり・弓矢	平28.4.14	6名
3	須賀川市立小塩江小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	平28.4.20	10名
4	喜多方市立堂島小学校	小6年、社会	勾玉・土器さわり	平28.4.21	16名
5	田村市立常葉小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし	平28.4.27	22名
6	郡山市立安積第一小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	平28.4.28	85名
7	川俣町立福田小学校	小6年、社会	勾玉・土器さわり・火おこし	平28.5.11	10名
8	田村市立関本小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	平28.5.12	12名
9	本宮市立岩根小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	平28.5.18	57名
10	郡山市立大田小学校	小5・6年、社会	土器さわり・火おこし	平28.5.19	6名
11	玉川村立須釜小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし	平28.5.25	28名
12	埴町立常豊小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	平28.5.26	8名
13	福島県立磐学校福島分校	小4～6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	平28.6.1	8名
14	二本松市立旭小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	平28.6.2	13名
15	福島県立磐学校会津分校	小1・4・6年、社会	土器さわり・弓矢	平28.6.8	3名
16	磐梯町立磐梯第一小学校	小6年、社会	土器さわり・弓矢	平28.6.15	15名
17	柳津町立柳津小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	平28.6.16	24名
18	南会津町立館岩小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	平28.6.22	11名
19	喜多方市立駒形小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	平28.6.23	14名
20	会津若松市立湊中学校	中1年、社会	土器さわり・火おこし	平28.6.30	12名
21	磐梯町立磐梯第二小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし	平28.7.6	9名
22	大玉村立大山小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし	平28.7.7	28名
23	郡山市立海老根小学校	小5・6年、社会	土器さわり・火おこし	平28.7.13	10名
24	昭和村立昭和小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	平28.7.14	4名
25	南会津町立田島第二小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	平28.8.31	18名
26	浅川町立里白石小学校	小5・6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	平28.9.1	14名
27	二本松市立渋川小学校	小6年、社会	勾玉・土器さわり	平28.9.7	12名
28	本宮市立和田小学校	小5・6年、社会	土器さわり・火おこし	平28.9.8	27名
29	北塩原村立裏磐梯小学校	小6年、社会	火おこし	平28.9.14	13名
30	本宮市立五百川小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	平28.9.15	56名
31	福島県立須賀川養護学校	中1～3年、社会	勾玉・土器さわり・弓矢	平28.9.21	12名
32	田村市立美山小学校	小6年、社会	弓矢	平28.9.28	11名
33	伊達市立伊達東小学校	小6年、社会	勾玉・土器さわり・火おこし	平28.10.5	22名
34	二本松市立石井小学校	小6年、社会	勾玉・土器さわり	平28.10.6	37名
35	川俣町立川俣南小学校	小6年、社会	火おこし	平28.10.13	27名
36	本宮市立糠沢小学校	小6年、社会	勾玉・土器さわり・火おこし	平28.10.20	26名
37	伊達市立小手小学校	小5・6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	平28.10.26	12名
38	伊達市立白根小学校	小5・6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	平28.11.2	6名
39	二本松市立油井小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	平28.11.9	55名
40	福島県立磐学校平分校	小1～6年、生活・総合・社会	土器さわり・火おこし・弓矢	平28.11.10	13名
41	郡山市立根本屋小学校	小6年、社会	勾玉・土器さわり	平28.11.16	10名
42	福島県立あぶくま養護学校	中3年、社会	土器さわり・弓矢	平28.11.30	28名
合計					860名

まほろん出前講座

番号	団体名	学年・年齢	内容	実施日	人数
1	いわき市立内郷公民館	小1～6年	火おこし・弓矢・拓本	平28.5.21	103名
2	矢吹町中央公民館	小1～6年	勾玉・土器さわり	平28.6.5	17名
3	本郷公民館（会津美里町）	小1～6年	土器さわり・火おこし・弓矢	平28.7.26	37名
4	棚倉町子どもセンター	小1～6年	土器さわり・火おこし・弓矢	平28.7.28	35名
5	稲田公民館（須賀川市）	小1～6年	土器さわり・拓本・射的体験	平28.8.2	44名
6	ひろの元気教室（広野町）	小4～6年	火おこし・弓矢	平28.9.1	33名
7	桑折町中央公民館	小4～6年	勾玉	平28.11.6	14名
8	相馬市東部公民館	小4～6年	勾玉	平28.12.10	14名
合計					297名

まるごとまほろん

番号	団体名	年齢	内容	実施日	人数
1	国立磐梯青少年交流の家	未就学児～一般	昔の遊び・弓矢	平28.4.29	207名
2	国立那須甲子青少年自然の家	未就学児～小学生	弓矢	平28.10.2	255名
3	須賀川市教育委員会	小学生・一般	土器さわり・弓矢	平28.10.9	435名
4	国立磐梯青少年交流の家	未就学児～一般	弓矢	平28.10.16	212名
5	大玉村あたらふるさとホール	小学生・一般	勾玉・土・弓・火・缶バッジづくり	平28.10.29～10.30	延べ433名
6	ふくしま海洋科学館	小1～4年	鹿角製の釣り針づくり	平28.11.5	30名
7	那須高原ビジターセンター	小学生・一般	土器さわり・弓矢	平28.11.20	693名
合計					2,265名

1) おでかけまほろん

小中学校などの教育機関を対象としたプログラムで、平成28年度は42箇所・43校で実施した。

学校の先生と学芸員が協力して授業を行い、学校周辺の歴史や遺跡を知り、古代の人々の暮らしや技術を学ぶ体験活動を行った。本年度実施した体験活動の内容は、「本物の土器や石器にふれてみよう」「火おこしに挑戦」「勾玉づくり」「弓矢体験」である。



おでかけまほろん

2) まほろん出前講座

公民館などの生涯学習施設における「子どもクラブ」や「高齢者学級」等を対象としたプログラムで、平成28年度は、いわき市・須賀川市・相馬市・会津美里町・桑折町・棚倉町・広野町・矢吹町の8市町8箇所で開催した。本年度実施した体験活動の内容は、「本物の土器や石器にふれてみよう」「火おこしに挑戦」「勾玉づくり」「弓矢体験」「射的体験」「土器の拓本とり」である。

3) まるごとまほろん

地域住民を対象とする行事において、当館が収蔵する考古資料の展示や体験学習などを行うプログラムである。平成28年度は、国立磐梯青少年交流の家、国立那須甲子青少年自然の家、須賀川市教育委員会、大玉村あだたらふるさとホール、ふくしま海洋科学館（アクアマリンふくしま）、那須高原ビジターセンターが主催した6箇所7回のイベントに参加した。

4) ネットでまほろん

遠隔地の学校や、障がいを持っているため来館して体験活動を行うことが困難な学校を対象としたプログラムである。当館と会場をインターネット回線によるテレビ電話で結び、授業を行うものであるが、平成28年度は、対象となる学校で「おでかけまほろん」を実施したため、本プログラムの利用はなかった。

5 文化財に関する情報発信

1. ホームページによる情報発信

平成28年度のホームページアクセス数の推移を下表に示した。年間総アクセス数は47,999件であった。東日本大震災の発生後に落ち込んだが、徐々に回復し、前年度（46,785件）も上回った。

なお、平成13年7月14日のホームページ開設以来の累計アクセス数は、67万件を超えた。

ホームページアクセス数

	月間アクセス数	累計アクセス数
4月	4,684	630,879
5月	4,733	635,612
6月	4,059	639,671
7月	4,178	643,849
8月	4,117	647,966
9月	4,287	652,253
10月	4,125	656,378
11月	3,948	660,326
12月	3,218	663,544
1月	3,175	666,719
2月	3,677	670,396
3月	3,798	674,194
合計	47,999	

2. データベースによる情報提供

(1) アクセス数の推移

平成27年度は、機器類のメンテナンスに伴いデータベースへのアクセスを遮断した時期があったため、アクセス数がゼロの月もあったものの、アクセス数が極端に多い月もあったために、年間を通じての総アクセス数は、358,403件であった。

これに対し、平成28年度は、アクセス数が

多い月でも15,000件程度であったことから、年間の総アクセス数は128,496件にとどまった。

これは、東日本大震災後の復興関連で一時急激に増加した遺跡データベース等への需要が、前年度以降、ひと段落したことが影響したとも考えられる。なお、平成28年度のアクセス数は下表のとおりである。

データベースアクセス数

	総アクセス数	各アクセス数			
		遺跡	遺物	文献	写真
4月	14,297	4,781	3,833	3,901	1,782
5月	9,076	2,871	3,047	1,996	1,162
6月	9,046	2,706	2,189	3,146	1,005
7月	15,019	4,173	5,968	3,294	1,584
8月	13,910	3,341	7,508	2,134	927
9月	11,508	5,204	2,872	2,290	1,142
10月	15,267	5,875	4,360	3,720	1,312
11月	11,066	4,327	2,699	2,663	1,377
12月	8,032	4,339	1,102	1,898	693
1月	7,112	2,851	1,729	1,561	971
2月	9,622	4,410	2,555	1,857	800
3月	4,541	1,824	1,118	849	750
合計	128,496	46,702	38,980	29,309	13,505

(2) データの入力

新規入力数(テキスト)を別表として示した。合計入力数は12,241件である。

データ入力一覧

種類	入力数	削除数	累計(点)
遺跡(基本データ)	0	0	13,841
遺跡(調査台帳)	3	0	4,419
遺物	7,293	0	262,482
遺物写真	0	0	20,245
写真	4,564	0	61,310
文献	381	0	18,606
合計	12,241	0	380,903

3. まほろん通信の発行

平成28年度は、年4回発行した。発行日は、4月15日、7月1日、10月1日、1月15日で、各4,000部を発行した。概要は、以下のとおりとなっている。

なお、平成28年度はvol.59(春号)から、まほろん通信のデザインを一新した。

- (1) まほろん通信vol.59(春号4月15日発行)
 - ・特集「まほろん冬まつりの様子」
 - ・シリーズまほろんのヒミツ1「体験学習の裏側に密着!之巻」
 - ・シリーズ収蔵資料品紹介23「縄文土器のスとコゲについて」
 - ・コラム「縄文土器の地域性」

- (2) まほろん通信vol.60(夏号7月1日発行)
 - ・特集「夏の企画でんじとまほろん夏まつりのご案内」
 - ・シリーズまほろんのヒミツ2「古代の田畑の実態にせまる!之巻」
 - ・シリーズ遺跡発掘最新情報1「相馬市向山遺跡」
 - ・コラム「文化財を災害から守るために」

- (3) まほろん通信vol.61(秋号10月1日発行)
 - ・特集「『真田丸』とふくしま〜クイズまほろん博士に挑戦!〜」
 - ・シリーズまほろんのヒミツ3「資料管理の実態に迫る!之巻」



「まほろん通信vol.59春号」

- ・シリーズ収蔵資料紹介24「報告します！『ツチノコ』発見！」
- ・コラム「歴史と植物を学ぶ野外展示解説会」

- (4) まほろん通信vol.62(冬号1月15日発行)
- ・特集「『ワザの考古学』～わくわクニイさんが語る『ものづくり』の歴史～」
 - ・シリーズまほろんのヒミツ4「拝見！むかしの晩ごはん！之巻」
 - ・シリーズ遺跡発掘最新情報2「『バスケットボール』を描いたのは、誰ですか？～会津若松市鶴沼B遺跡出土人面墨書土器と西坂才遺跡出土の硯～」
 - ・コラム「『まほろん森の塾』の活動」

6 文化財に関する研修事業

1. 研修事業の概要

市町村・団体の職員や教職員等を対象に、文化財保護・活用等に必要な知識と技術を習得するための研修を行った。

研修は、受講者の習熟度に応じて、「基礎研修」「専門研修」と、多目的な要望に応えるため臨時に館内や館外で行う「特別研修」に区分して実施した。

2. 基礎研修

5回の基礎研修を実施した。

文化財研修実施状況

区分	研 修 名	講 師	実施日	受講者数	場所
基礎研修	考古資料研修「縄文時代早期の土器群について」	三浦武司(当館専門学芸員)ほか	平28.5.1	34名	当館
	文化財保護・活用基礎研修「被災資料の保全・記録実習」	中尾真梨子(福島県文化振興財団)	平28.6.18	10名	当館
	教職員等発掘調査体験研修	小暮伸之(当館専門学芸員) 和田伸哉(当館副主任学芸員)ほか	平28.8.3～5	延べ18名	須賀川市 当館
	無形の文化財研修「職人のワザを後世に伝えるために」	大山孝正(当館専門学芸員)	平28.12.17	10名	当館
	地方史研修「史実検証の手法―神指城と直江状の検討をもとに―」	本間 宏(当館学芸課長)	平29.2.25	19名	当館
専門研修	文化財と関連科学研修「最新技術による出土品分析法」	片岡太郎(弘前大学人文社会科学部)	平28.7.16	12名	当館
	文化財保護・活用専門研修「史料保全・記録実習」	阿部浩一(福島大学行政政策学類) 徳竹 剛(福島大学行政政策学類)	平28.9.10	14名	当館
	文化財保護指導者研修会	白水 智(中央学院大学法学部) 三瓶秀文(富岡町教育委員会) 芳賀友則(福島県教育庁文化財課) 国分俊徹(郡山市教育委員会) 懸田弘訓(民俗芸能学会福島調査団長) 押山雄三(郡山市文化・学び振興公社)	平28.10.13～14	延べ150名	郡山市
	考古学専門研修「弥生土器研究の諸課題」	滝沢規朗(新潟県教育庁文化行政課)	平28.11.19	11名	当館
特別研修	職員派遣研修「縄文土器の年代―スズとコゲからなぞをとく―」	三浦武司(当館専門学芸員)	平28.6.19	38名	福島市
	職員派遣研修「白河郡の平安時代について」	笠井崇吉(当館専門学芸員)	平28.8.26	16名	泉崎村
	職員派遣研修「平田村における近年の発掘成果」	佐藤 啓(当館専門学芸員)	平29.1.24	28名	平田村
	職員派遣研修「福島県内の中世及び近世の城郭について」	佐藤 啓(当館専門学芸員)	平29.3.22	18名	大殿町

3. 専門研修

4回の専門研修を実施した。

①「文化財と関連科学研修」は、考古資料の分析や保存などに関する科学的知識を学ぶ研修である。X線CTを活用し、縄文時代の漆器等の製作技術と内部観察を行う方法とその可能性について、弘前大学人文社会科学部の片岡太郎氏が解説した。

②「文化財保護・活用専門研修」は、文化財保護に必要な調査・保管・活用等に関わる専門的知識・技能を習得する研修である。今回は、福島大学行政政策学類の阿部浩一氏による未指定文化財の所在把握手法についての講義や、同大学の徳竹剛氏による記録保存実習を行った。

③「文化財保護指導者研修会」は、市町村の文化財保護審議委員等を対象に、毎年会場を変えて行う研修会である。平成28年度は、郡山市の大安場史跡公園を会場として実施した。平成23年3月12日に起きた長野県北部地震で、総世帯数931のうち694世帯が損壊した人口約2,000人の長野県下水内郡栄村が、民間所在資料の散逸を防ぎ、歴史文化館をオープンさせるにいたった取り組みについて、中央学院大学法学部の白水智氏が紹介した。次に、富岡町教育委員会の三瓶秀文氏が被災家屋の解体除染により、滅失の危機に瀕した地域資料の保全について、行政として取り組んできた先駆的な事例を紹介した。その他、民俗芸能の継承が課題となっている県内各地の参考事例について、民俗芸能学会福島調査団長の懸田弘訓氏が紹介した。また、国指定史跡・大安場古墳の見学や、「日本遺産」認定の取り組みに関する講義も実施した。



考古学専門研修

④「考古学専門研修」は、新潟県教育庁文化行政課の滝沢規朗氏を講師とし、弥生時代終末期～古墳時代前期初頭の土器文化をテーマとした講義が行われた。湯川村桜町遺跡で多く出土した北陸系土器の変遷が講義の中心となり、新潟県域の編年観を通して、桜町遺跡出土土器の変遷を見直し、北陸北東部系の土器の影響が非常に強く認められる点に言及された。講義の後、桜町遺跡出土の北陸系土器の実見が行われ、活発な意見交換が行われた。

4. 特別研修

上記の研修のほか、別表に示した職員派遣研修を4回実施した。

職員派遣研修は、市町村等の要請に応じて随時職員を派遣し、体験学習支援や地域史理解などに関する研修を行なうものである。

7 文化財の活用に関する調査研究

1. 放射性炭素年代測定と炭素窒素安定同位体比分析

白河館に収蔵されている土器に付着した炭化物について、加速器質量分析による放射性炭素年代測定を実施して、その年代的位置を明らかにし、測定年代の補正に必要な炭素・窒素安定同位体比分析も併せて実施する事業である。炭素・窒素安定同位体比分析により、土器の年代のみでなく付着炭化物の由来物質（食料資源など）の推定も可能となる。

分析は、平成26年度から平成30年度までの5箇年継続して行うこととし、3年度目の平成28年度は、縄文時代中期を中心に、前期末葉の土器を含めた40点について、付着炭化物の分析を実施した。

分析結果については、『研究紀要2016』に掲載するとともに、企画展「縄文土器の年代Ⅱ－縄文中期の世界に迫る－」において、その成果を公開した。

2. 研究紀要

専門職員が行なう館業務の過程での研究や、収蔵資料等に関する調査研究の成果を『研究紀要2016』に掲載し、発行した。

8 ボランティアの運営

1. 募 集

平成28年度は、前年度同様、「まほろんボランティア」の募集を随時行った。

申し込み資格は、①平成28年4月1日現在で18歳以上、②無償で活動できる方（保険料は当館負担）、③毎月2日間以上（1日2時間程度）活動できる方である。

2. 登 録

当館に登録するボランティアの名称を「まほろんボランティア」と呼び、登録形態は個人登録ボランティアとする。登録状況は下表のとおりである。

まほろんボランティア登録状況

平成28年度登録者数	20名 (男性12名・女性8名)
内訳	
1. 最年少	20歳
2. 最年長	88歳
3. 平均年齢	61歳（男67歳、女59歳） (平成29年3月31日現在)

3. 活動内容

主な活動内容は以下のとおりである。

- 屋内展示、野外展示の案内・解説
- 体験学習(実技講座・団体等)の支援
- イベントの支援
- 体験学習器材の製作
- 野外展示の火焚き管理
- まほろんオリエンテーリング
- 植物観察ツアー

4. 受け入れ体制

白河館のボランティア活動は、昼食や交通費を支給しない無償・無給制を原則とする。しかし、活動中の事故等を補償するボランティア保険の加入、ユニフォームの貸与、休息室の確保、各種研修の実施など、活動環境の整備を図っている。

また、学芸課に3名のボランティア担当者を配置し、館側とのスケジュールや活動内容の調整を行っている。意見交換の場として、平成

28年度は計9回の説明会およびまほろんボランティア連絡会・説明会を開催した。



ボランティアによる野外展示の解説

9 その他

1. 年報2016の発行

当館の平成27年度1年間の活動をまとめた年報を作成し、市町村教育委員会や学校等の関係機関に送付した。

2. 運営協議会の開催

福島県文化財センター白河館運営協議会は、館長の諮問機関であり、会議を年2回開催している。

なお、平成28年度の委員6名は次のとおり。

- ・藤沼 邦彦：元弘前大学教授、再任
- ・日下部善己：元二本松市立岳下小学校長、再任
- ・平出美穂子：元郡山女子大学准教授、再任
- ・面川 三雄：西白河小中学校長連合協議会長
- ・和知 延：元白河市文化財保護審議会委員、再任
- ・江崎 俊光：国立那須甲子青少年自然の家所長

(1) 第1回運営協議会

日時：平成28年10月1日（土）

場所：講堂

議事

- ・平成27年度白河館の事業実績について
- ・平成28年度白河館の運営状況について

- ・平成29年度白河館の事業について
- ・その他

（２）第２回運営協議会

日時：平成29年３月11日（土）

場所：会議室

議事

- ・平成28年度白河館の運営状況について
- ・平成29年度白河館の事業について
- ・その他

３．博物館実習

県内の大学生及び県内出身者で県外の大学に通う大学生を対象として、博物館実習の受け入れを行った。

４．被災ミュージアム再興事業

福島県教育委員会からの委託事業として、被災ミュージアム再興事業を実施した。

原子力災害によって帰還困難区域・居住制限区域となっている双葉郡内の資料館の文化財等を、白河館に設置された仮保管施設に移送して整理・データベース化・保存作業を行い、安定した収蔵環境を維持した上で資料を保管する作業を実施した。

５．他機関との連携

自治体・教育普及機関・研究機関と連携して、以下の事業を実施した。

（１）福島県立図書館との連携

１）まほろん移動展

「縄文土器の年代ーススとコゲからなぞをとくー」

会期：平成28年６月３日（金）～７月６日（水）
（開催日数29日間）

場所：福島県立図書館（福島市）エントランス
展示コーナー

観覧者数：1,297名

２）移動図書館（あづま号）コーナーの設置

実施日：平成28年11月27日（日）「まほろん感謝デー」

場所：白河館正面玄関前



「縄文土器の年代ーススとコゲからなぞをとくー」

（２）ふくしま海洋科学館（アクアマリンふくしま）との連携

１）実技講座「鹿角の釣針で魚を釣ってみよう②魚釣り」の開催

実施日：平成28年８月７日（日）

場 所：ふくしま海洋科学館（いわき市）

２）「釣針づくり体験講座」の講師派遣

実施日：平成28年11月５日（土）

場 所：ふくしま海洋科学館（いわき市）

３）移動水族館（アクアラバン）開催

実施日：平成28年11月26日（土）・27日（日）

「まほろん感謝デー」

場 所：白河館正面玄関前

（４）その他

１）兵庫県立考古博物館で開催された「全国古代体験フェスティバル2016」に体験ブースを出展した。

開催日：平成28年11月５日（土）



「全国古代体験フェスティバル2016」

2) 国立那須甲子青少年自然の家・国立磐梯青少年交流の家・那須高原ビジターセンターと連携し、イベント実施時に相互に体験ブースを設置した。

3) 福島県被災文化財等救援本部による被災文化財保護活動に参加した。

6. 歴史再発見事業資料展

公益財団法人福島県文化振興財団の主催事業として、歴史再発見事業資料展「手仕事ふくしまー編み組技術のルーツと現在ー」を白河館特別展示室において開催した。

「手仕事ふくしまー編み組技術のルーツと現在ー」

会期:平成29年1月14日(土)～2月12日(日)

(開催日数26日間)

観覧者数:1,470名

1) 趣旨

植物を利用して道具を作る技術は、現代に至るまで脈々と受け継がれてきたが、東日本大震災と原子力災害の影響により、その継承が困難になっているものが存在する。ふくしまに受け継がれてきた「手仕事」のルーツをさぐりながら、現代に至るまでの歩みを見つめ直し、次の世代に伝えることを考えていく企画展である。

2) 展示の構成と内容

①受け継がれてきた技術

縄文時代から現代まで受け継がれてきたかごなどの編み組製品とその技術を紹介した。



「手仕事ふくしまー編み組技術のルーツと現在ー」

②存続が危ぶまれる技術

東日本大震災に伴う原子力災害の影響でその継承が困難となっている南相馬市小高区の「小高の箕」について、震災前に撮影していた映像記録を基に、箕づくり技術の再現を試みた。

③編み組技術のルーツ

遺跡から発見されるかごと敷物の違いや潰れた状態で出土したかごの見方などについて説明した。また、遺跡から出土したかごとその復元品やまほろん収蔵の縄文土器底部資料などを展示した。

④記録に残る編み組製品

編み組製品が現物として確認できない時期の資料については、文書や絵画資料などが手掛かりになる。今回は、『会津農書』などの文書類や、『江戸名所図会』などの絵画資料を参考に、当時のかごなどの編み方や形状及びその使用状況を紹介した。

⑤技術を守り、伝える

現代の様々な編み組製品を展示するとともに、福島県内で現在も活躍されている作り手の方々の写真を展示した。また、まほろんにおいて現在取り組んでいる編み組技術再現の成果の一部を紹介した。

⑥おわりに

3) 関連講座

平成29年1月14日(土)に、歴史再発見事業資料展の開幕に併せて、記念講座「手仕事ふくしま」を開催した。

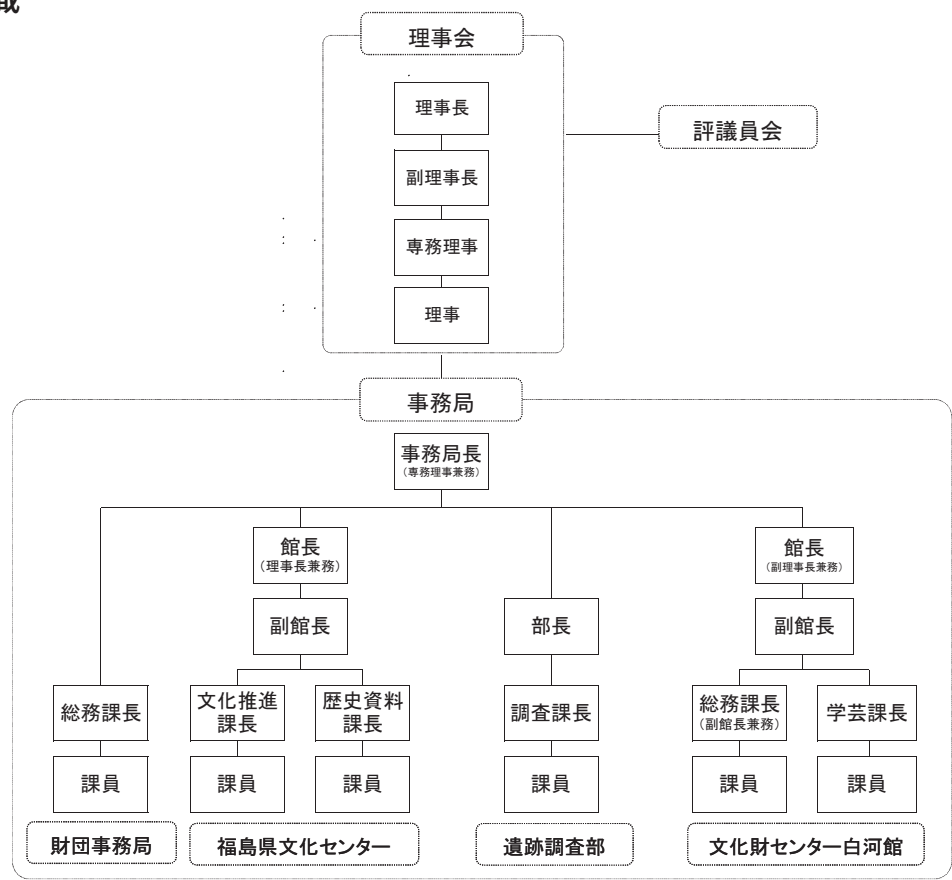
4) 成果と反省

ふくしまの手仕事について、森の豊かな自然素材を利用する編み組技術を中心に紹介した。

編み組技術は、「編む」工程だけでなく、「材料の採取から加工」までの工程が非常に重要であることを示すことができた。また、現代の編み組技術を知ること、遺跡から出土するかごなどの製作技術の推定が可能であることなどを紹介し、編み組が古来から受け継がれてきたものであることを観覧者に伝えることができた。

第3章 平成28年度の組織と管理運営費

1 組織



職員名簿

職 名		氏 名	職 名		氏 名	
館 長		菊 池 徹 夫	学 芸 課	専門学芸員	國 井 秀 紀	
副 館 長		鵜 澤 義 孝		専門学芸員	大 山 孝 正	
総務課	課長（兼務）	鵜 澤 義 孝		専門学芸員	阿 部 知 己	
	主 幹	鈴 木 智 子		専門学芸員	笠 井 崇 吉	
	主任主査	佐 藤 貴 司		専門学芸員	三 浦 武 司	
	主 査	八 巻 裕美子		副主任学芸員	和 田 伸 哉	
	事務補助員	鈴 木 智 子		学芸員	柿 沼 梨 沙	
	物品販売補助員	金 澤 明 希		嘱託	山 内 幹 夫	
	学芸課	課 長		本 間 宏	アテンダント	佐 藤 あかね
主 幹		吉 田 功		アテンダント	河 西 久 子	
副 主 幹		香 川 慎 一		アテンダント	独 鈺 亜由美	
専門学芸員		小 暮 伸 之		アテンダント	高 木 茜 音	
専門学芸員		佐 藤 啓		アテンダント	渡 邊 あかり	
				職員総数 25名		

(平成29年3月31日現在)

2 白河館管理運営費

・ 指定管理者委託料 240,717千円

第4章 まほろん施設の概要

施設名：福島県文化財センター白河館

(愛称：まほろん)

所在地：〒961-0835

福島県白河市白坂字一里段86番地

設置者：福島県

開館：平成13年7月15日

管理機関：公益財団法人福島県文化振興財団

◎建築概要

1. 敷地面積：51,827.51㎡
2. 建築面積：本館・収蔵庫棟 5,866.328㎡
体験学習館 133.627㎡
3. 延床面積：本館・収蔵庫棟 5,399.815㎡
(本館2,400.046㎡、収蔵庫棟 2,999.769㎡)
体験学習館 92.71㎡
4. 構造
 - ①本館棟 鉄筋コンクリート造
 - ②収蔵庫棟 鉄骨造
 - ③体験学習館 木造
5. 駐車台数等
 - ①一般駐車場 91台 (うち身障者用4台)
 - ②大型車駐車場 10台
 - ③職員駐車場 21台
 - ④駐輪場 28台
6. 地域地区：都市計画区域内、無指定

◎設備概要

1. 電気設備：
 - ・受電方式／高圧6.6KV 1回線受電、変圧器容量／400KVA、予備電源／非常発電50KVA
 - ・非常照明設備：建築基準法に基づいて設置
 - ・放送設備：非常放送と兼用、出力240W
 - ・電気時計設備、テレビ共同視聴設備、インターホン設備
 - ・電話設備：電子交換機、外線4回線、内線55回線
 - ・監視設備：分散型総合管理システムにより、受電設備・防災設備・空調設備を遠隔発停制御及び計測監視

2. 空調設備

- ・空調方式
一般系統／ガスエンジン空冷HPマルチパッケージ方式 (一部空冷HP) + 静止型全熱交換器、特別収蔵庫系統／単一ダクト (空冷冷専パッケージ+電気ヒーター+アルカリ除去フィルターユニット) 方式、常設展示室・特別展示室／単一ダクト (ガスエンジンHPP) 方式
- ・熱源：都市ガス (ガス種別：プロパン)

3. 衛生設備

- ・給排水設備：給水／水道直結方式、給湯／局所式、排水／汚水・雑排水；屋内分流・屋外合流 (最終桝でポンプアップ) 方式で下水道本管へ放流
- ・雨水：側溝放流
- ・多目的便所：屋内1箇所 (男女別)、屋外1箇所 (男女別)、トイレ呼出設備付

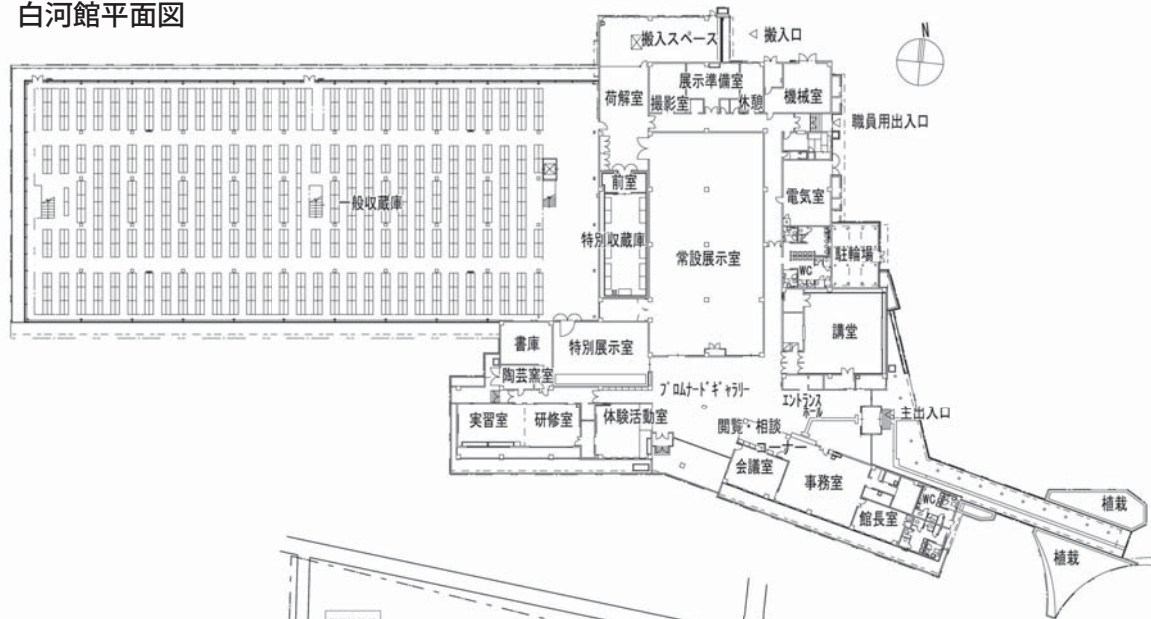
◎建築工事工期

- ・着工：平成11年7月12日
- ・完成：平成12年10月16日

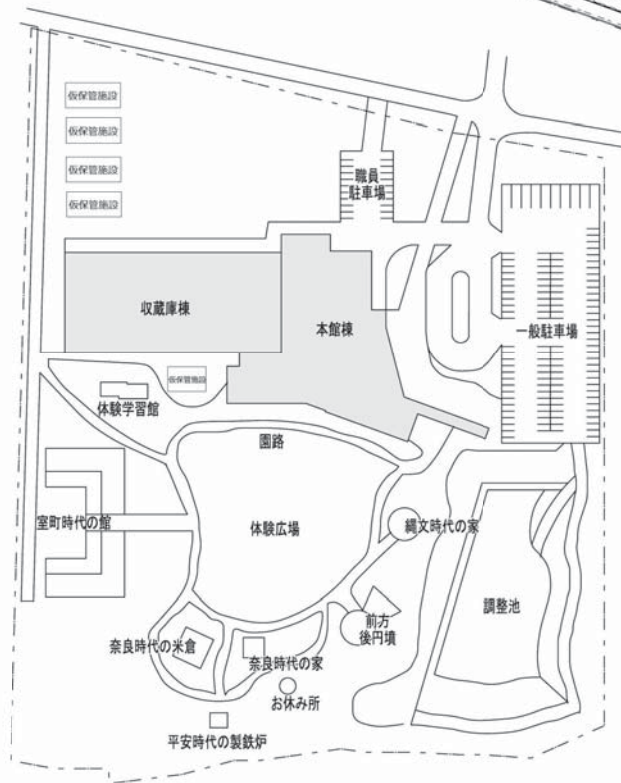
◎総建設費 3,300,625千円

- ・内訳 建築費 2,690,848千円
- 公有財産購入費 222,095千円
- その他の経費 387,682千円

白河館平面図



白河館配置図



主要諸室面積表 (㎡)

室 名	面積	備 考	室 名	面積	備 考
常設展示室	510		書庫	53	
特別展示室	126		搬入スペース	115	
講堂	143		荷解室	103	
研修室	51		特別収蔵庫	104	
実習室	61		特別収蔵庫前室	21	
体験活動室	64		一般収蔵庫	2,761	積層棚2層目部分 2,263㎡
陶芸窯室	16		警備員室	22	
閲覧・相談コーナー	25		休憩室	25	
エントランスホール・プロムナードギャラリー	390		展示準備室	43	
事務室	104		撮影室	39	
会議室	47		その他	516	
館長室	36		合 計	5,400	
印刷室	16		体験学習館	93	
救護室	9		仮保管施設	889	5棟 (194㎡×4棟+113㎡)

第5章 まほろんの条例・規則

1 福島県文化財センター白河館条例

(平成13年3月27日 福島県条例第43号)

(設置)

第一条 地方自治法(昭和二十二年法律第六十七号)第二百四十四条第一項の規定に基づき、文化財等を保管し、又は活用することにより、県民の文化の振興に資するため、福島県文化財センター白河館(以下「白河館」という。)を設置する。

(位置)

第二条 白河館は、白河市白坂字一里段八十六番地に置く。

(平一八条例五一・一部改正)

(業務)

第三条 白河館において行う業務は、次のとおりとする。
一 考古資料の保管及び展示、考古資料以外の文化財の展示並びに文化財に関する資料の保管及び展示に関すること。

二 文化財に関する講演会、講習会等の開催に関すること。

三 文化財等を活用した体験学習の実施に関すること。

四 文化財に関する情報の収集及び提供に関すること。

五 文化財に関する調査、研究を担当する市町村等の職員の研修に関すること。

六 考古資料の保管及び文化財の活用に関する専門的又は技術的な調査研究に関すること。

七 前各号に掲げるもののほか、その設置の目的を達成するために必要な業務に関すること。

(指定管理者による管理)

第四条 白河館の管理は、福島県公の施設の指定管理者の指定の手続等に関する条例(平成十六年福島県条例第六十八号)の定めるところにより教育委員会が指定した法人その他の団体(以下「指定管理者」という。)に行わせるものとする。

(平一七条例一〇七・追加)

(指定管理者が行う業務の範囲等)

第五条 指定管理者が行う業務は、次のとおりとする。

一 第三条各号に掲げる業務に関すること。

二 白河館の維持管理に関すること。

三 前二号に掲げるもののほか、教育委員会が別に定める業務に関すること。

2 指定管理者は、業務の遂行に当たっては、県民の平等な利用を確保しなければならない。

3 指定管理者は、業務の遂行上知り得た個人情報(個人に関する情報であって、特定の個人が識別され、又は識別され得るものをいう。)その他の情報を適切に取り扱わなければならない。

(平一七条例一〇七・追加)

(遵守事項)

第六条 白河館を利用する者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

一 白河館の施設、附属設備、展示品等をき損し、又は汚損しないこと。

二 物品を販売し、又は頒布しないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)

三 館内において、展示品の模写、模造、撮影等を行わないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)

四 所定の場所以外の場所において、喫煙又は飲食を行わないこと。

五 他の利用者に危害又は迷惑を及ぼす行為をしないこと。

六 前各号に掲げるもののほか、管理上教育委員会が指示する事項

(平一七条例一〇七・旧第四条繰下)

(入館の規制等)

第七条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する者に対し、入館を拒否し、又は退館若しくは退去を命ずることができる。

一 前条の規定に違反した者

二 白河館の施設、附属設備、展示品等をき損し、又は汚損するおそれのある者

三 館内の秩序を乱し、又はそのおそれのある者

(平一七条例一〇七・旧第五条繰下・一部改正)

(使用料の不徴収)

第八条 白河館の使用料は、徴収しない。

(平一七条例一〇七・旧第六条繰下)

(委任)

第九条 この条例に定めるもののほか、白河館の管理その他この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

(平一七条例一〇七・旧第八条繰下)

附 則

この条例は、教育委員会規則で定める日から施行する。

(平成一三年教委規則第一六号で平成一三年七月一五日から施行)

附 則(平成一七条例一〇七号)

1 この条例は、平成一八年四月一日から施行する。

2 改正後の福島県文化財センター白河館条例第四条の規定による指定管理者の指定の手続は、この条例の施行の日前においても行うことができる。

附 則(平成一八条例第五一号)

この条例は、公布の日から施行する。

2 福島県文化財センター白河館条例施行規則

(平成13年3月27日 福島県教育委員会規則第3号)

(休館日)

第一条 福島県文化財センター白河館(以下「白河館」という。)の定期の休館日は、次のとおりとする。

一 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和二十三年法律第七十八号)第三条に規定する休日(以下「休日」という。)に当たるときを除く。

二 休日の翌日。ただし、その日が土曜日、日曜日又は休日に当たるときを除く。

三 一月一日から同月四日まで及び十二月二十八日から同月三十一日まで

2 指定管理者(福島県文化財センター白河館条例(平成十三年福島県条例第四十三号)第四条に規定する指定管理者をいう。以下同じ。)は、必要があると認めるときは、あらかじめ福島県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)の承認を得て、臨時に休館し、又は臨時に開館することができる。

(平一七教委規則一六・一部改正)

(開館時間)

第二条 白河館の開館時間は、午前九時三十分から午後五時までとする。ただし、指定管理者は、必要があると認めるときは、あらかじめ教育長の承認を得て、これを臨時に変更することができる。

(平一七教委規則一六・一部改正)

(文化財等の特別利用)

第三条 白河館が保管している文化財等を学術上の研究その他の目的のため特に利用しようとする者は、教育長の承認を受けなければならない。

(委 任)

第四条 この規則に定めるもののほか、白河館の管理その他この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、福島県文化財センター白河館条例（平成十三年福島県条例第四十三号）の施行の日から施行する。（施行の日＝平成一三年七月一五日）

附 則（平成一七年教委規則第一六号）

この規則は、平成十八年四月一日から施行する。

まほろんの利用案内

開館時間 ・ 午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休 館 日 ・ 毎週月曜日（国民の祝日の場合はその翌日、GW・夏休み期間中は開館）
・ 国民の祝日の翌日（ただし土・日にあたる場合は開館）
・ 年末年始（12月28日～1月4日）

入 館 料 ・ 無料

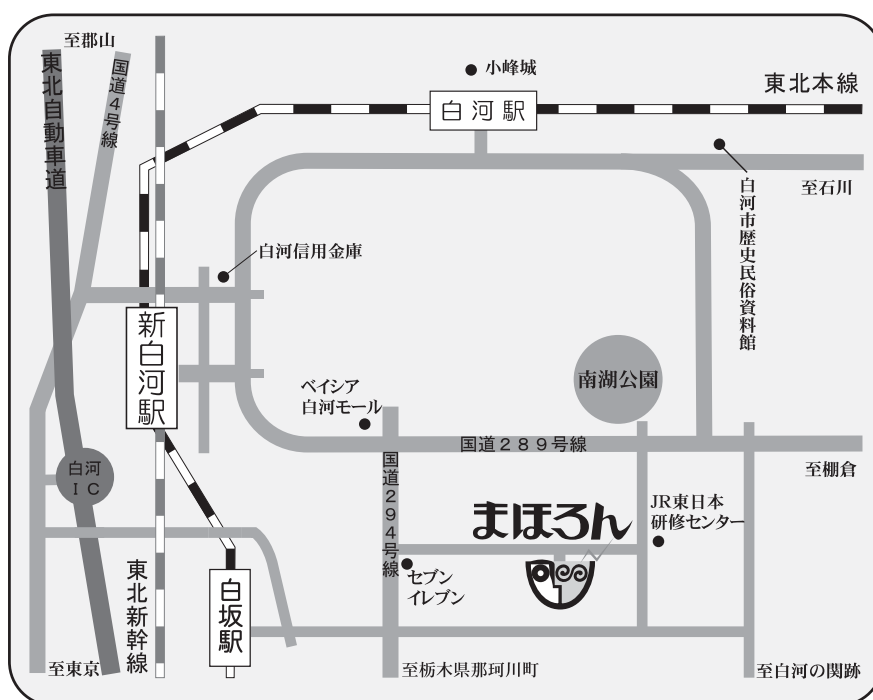
交通案内 ・ JR東北本線白河駅、JR東北新幹線新白河駅から白河市循環バスまほろんバス停下車

・ JR東北本線白河駅、JR東北新幹線新白河駅から福島交通バス（白坂駅経由白坂・白坂駅行き）まほろんバス停下車

・ JR東北本線白河駅、JR東北新幹線新白河駅からJRバス（棚倉行き）南湖公園下車徒歩25分

・ 東北自動車道白河I.C. から車で20分

そ の 他 ・ 屋内、屋外に多目的トイレを備えています。車いす、ベビーカーも用意しています。



福島県文化財センター白河館

年報 2017

平成 29 年 9 月 29 日発行

編集・発行 公益財団法人福島県文化振興財団
福島県文化財センター白河館
〒 961-0835 福島県白河市白坂一里段 86 番地
TEL 0248-21-0700 FAX 0248-21-1075
<http://www.mahoron.fcp.or.jp>
